

平成九(1997)年 降矢87歳

324 (1/1) 恙なく 初日拝して 老いの倅 (年賀状)

325 (1/4) 門松の 松伐る山へ 孫も来し

寒いけれど 今日は日中 穏やかでした。歳末特にご多忙中を 今年も(高幡不動尊) 暦を御恵與下され、お礼申し上げます。中川さんには正月になってから届けます。 やっと年賀状書き上げて 今宵はヤレヤレという処です。 朝七時頃は部屋が三四度でして、十時頃 五・六度で山着に着替えて日向の山畑です。

時代にも副えず 工商立国時代 激動の世 何か不安を感じます。正月は南西の日向で 日を楽しみます。

326 (1/9) 良き年を迎えられたと存じます。松の七日も終りました。雪のない正月

でした。山並に雪の見ぬのも正月らしくありませんが、私は救われました。五日 寒の入り突如二時頃より雪が本格に振り出し、翌朝止み、約二〇センチ。寒し雪は豊年の吉兆ですが、北面は根雪となり三月頃迄残ります。

雪が怖い私は、暮から正月も痛む体を使いました。耕土は浅いしや瘦地ですから駄目ですが、猪が荒さなかつた山芋を掘り。正月二日は暖でしたから人参掘り。次に、暮の廿日 木の裏側になつてはいる袖を発見しました。ならないと思つていたので 暮、夏の日照りで裏側になつたのでせうか? 採ってみると例年の十一月頃のように 熟していませんで、極く小さいんです。冬至は過ぎたが風呂にでも入れて使つて下さい。私は柚味噌や柚子湯 砂糖漬に使いますが、堅いし味も悪いです。なにもかも主人に似て 厄介者なんぞせう。

沢山あるは大根やジャガ芋だけですね。雑穀は駄目だし。秋小麦を少し作り、五十年振りか ライ麦を作る。是は以前食べましたが、今度は緑肥用に試作です。四 | 五月体調がよくも 不整時や粗放農業でせう。それでも何とか今年丈でも畑に出た いです。

雪が降ると 午前九時 室内三度です。五度以上にならねと動けません。

327 (1/13) 雪ごもり 干魚かみしめ 友恋し

前の坂道は私には難所で 雪後五日目に降りました。過疎化が強められたためか、正

月も年々淋しく、子女の楽しむ小正月の行事も消ようとしている 新時代になりま

した。

孫七山のSさんの事は憧れで現実の私には及ばず 空虚な身にはうらやましいこと で、私には夢ですね。庭先や一寸日辺りの悪い所は雪です。野菜畑まで雪を掃き昨 十二日午後より仕事です。午前中は家で蠢いています。五・六度にならぬと冬眠状態 です。

328 (1/31) 廿日ぶりで雨から雪が降りました。今度は10センチ位で翌日は好天気

日向の雪は消えました。冬至から一ヶ月ですから、日脚の伸びが嬉しいですね。先の 雪は北面の日蔭に根雪として残り、その上に又積たのです。今度は二日程で日向に出 掛けます。然し室内温度は厳しく〇度で一〇時頃五・六度です。

金子さんも食卓祭が間近で忙殺されていることせう。山芋を送つた際に準備してあ つた山葵漬 落してしまいました。味が悪いかも知れませんがご笑味ください。それか ら僅ですが粟粳を送ります。是は粟飯用です。白米に三割位入れて、粟飯を食べて (試食) ください。粟の粳はあまり作りません。私も好みではありませんが、今は 珍しがられています。二年分を併せ やつと精白量に達しました。最低七升なければ 精白出来ません。残りは長寿館に出荷です。ジャガ芋まだ味が変わらぬから、是も 入れます。

立春が迫りました。私も後四〇日経ると、暖さを感じませう。西原は立春を元旦に すれば季節感に似ます。一ヶ月遅れか旧暦がいいです。寒くて季節が新暦では早すぎ ます。

329 (2/21) 近頃、テレビで白峰村(滝川さんの出身地)の雪だるま祭り、秋田・横

手の雪でかまくらを造る。かまくらと好一对だった、感動しました。その他信州野 沢・山形の雪景 東北一帯や雪国温泉を雪国の人達は元気に活動している姿が、残り ます。

一方南国は花で、菜の花に蜜蜂がむらがり、月曜の夜ははじめて館山の海を見まし た。陸上ばかりか海上も春でした。

空風で越冬野菜は半枯 やつとさがした露の臺を半枯れ葱味噌。そんな折、流しの青 果物店はもう大きなナス、南瓜があり、南瓜はメキシコ産のようでした。七割輸入食 で残飯を出す国、山村では製材を街から運んで建築、妙な時代ですが、自然界は昔の ままです。でも三月になれば、花粉は舞うでせう。

大小屋の隅に根雪は残っていますが、庭の日向の盆梅が三四輪咲きました。小雨があ り、小雪があり、一進一退の早春 日脚の伸びが嬉しい。後一ヶ月で待った暖かさに

なるでせう。

330 (3/17) 室内温度が朝夕七—〇度になりました。「たまのよこやま」毎号有難う御座います。金子さんの祝賀会を三人で催されたこと 麗しい話で本当に羨望の三人です。私は暖になっても寝込みはしません、寒のために運動不足と、暖になれば花粉症かも知れません。

一月半ばは、戦前からの老友が他界して愕然としました。戦前からの友は後三人です。私は一番知っている方々なので、次二月は男性で一位だった老人も他界して、私は九〇に達せぬのに二位になりました。後輩の他界より心に來ますね。

・・・私の百姓になる頃に山桜を仕立てた記念木、ことしは開花が早い由、いつ開くか？ 梅の花が盛りです。寒い折、句の整理と思いましたが駄目でした。もうし五年前でしたらと老衰が恠しい。

331 (3/29) (礫山美術館 萩原礫山 坑夫 写真絵葉書)

彼岸中 安曇野に行き、あきらめていた二女の新居を訪れ、十日間滞在でした。もう一度訪ねたい礫山美術館、雪のある北アルプスと再会。広い安曇野 山葵畑を終生の思い出に、美術館は笹村草人先生設計で新館には作品もあり、是で私の念願は叶えられた次第。暖になっても畑には段々無理です。カタクリに蕾が出ました。桜も早そうですね。

332 (4/17) 自然界は妙です。今春は桜の開花十日以上も早く、ところが染井系の桜は鳥の被害で花は疎らです。私の山桜もやられ、花はろくろく咲かず、然し遅咲きの白の山桜花は満開ですが、是は鳥がどうして喰わぬのか？

只今 岩つつじ(三つ葉つつじ)が美事で、こぶし又鉢の石楠花も好もしく。体調は六年振りの旅の疲れが残り、暖くなればと思いましたが、花粉症も手伝わだめです。帰宅してやつとジャガ芋を植え、里芋を植えました。生き残ったキャベツ、ノラボウも元気になりました。急激に春の展開で追いつけませんですね。今度玉蜀黍やインゲンです。僅やると疲れがきます。

訪れて呉れる人も便りを下さる方も無し、日中は妻と二人です。十一日用事で倅と大月に日帰り 桂川溪谷 猿橋の雑木林は萌芽から若葉へ移ろう晩春で驚きました。きつと高尾から武甲の辺りも同様でせう。私の一番好景観ですが、新緑の頃は昔から百姓の季節ですから、この景色は旅したことが有りません。今年はず穀も作れません。けものは減りましたが、鳥の被害は防ぎようもなしです。

333 (4/30) 桜は十日以上開花が早かったが、四月も下旬から低温で心配した晩霜に被害がありました。山菜の季ですが、山菜迄霜害です。

健やかに子供さん巣立たれて、親鳥丈の家庭になった由。人生はそれが繰り返されるですね。私は二十五年前でした。幸い倅は戻り、後四五年経ると倅が子供に巣立たれたので、山村は戻る子供は稀なんです。・・・木を植えることは憧れでした。今は畑に行くさえ難渋になりました。生き残ることも恠しいものです。里芋は例年並みに植えました。食べる人も無いでせうが、秋は掘りに都合して下さい。友人達とでも食べるように。少し畑にでると疲れて、老化とはこんなものでせう。

334 (5/14) 鯉のぼり 尾をふるごとく 青葉風

催しものは方々にあつた様子 四月の小菅の源流祭に車が激しく通りました。私は世捨人ですから、人目につかぬよう畑でした。老妻が風邪で半月、私独で畑ですが、私もやつと出掛ける体調で、それに雨が相変わらず乏しく、八日の強風は砂漠の風のようにでした。帰宅すると何の元気もなく、八日夜から朝迄雨で、半日寝込んでいたら、カンカン照りでした。発芽は悪し、百姓が全く嫌になりました。時代に副えぬ老人は孤独です。

335 (6/10) 六月はまだ快晴の日もなく、それで僅に小雨や俄雨です。冬から雪も雨も乏しい年で、それ故か筍も不作でした。

近代化に副えず、旬なしに食膳に野菜は出るし、張り合いがない精か野菜の種類も僅にして作りました。氣力が衰えたということも体調が悪いからで、少しやれば疲れ、時々雨日もないので、床に半日は居ります。妻が風邪でなかなか元気にならず、助手無し独りで耕作は駄目なものです。句も作れず、訪れる友もなく、長寿も恠しい。―当然なことなんです。

ジャガ芋の花が咲き出しました。花盛り頃は例年梅雨ですが、今年はこちらからどんな天候か。金子さんも六月は田植えでせう。孫さんは何が生まれましたか。・・・六月は木俣さんも帰国でせう。・・・月に二回診療所に外科医が来るので、注射をしますが、歩行段々難儀です。

336 (6/17) 雨期になりそうです。長い乾期でした。

珍しく小麦を作りました。黄ばみ出しました。ジャガ芋十五日試食 今年も上々の出来です。何しろ気候は遅れる奥郡内で紫陽花など七月半頃咲くでせう。五月廿五日 松蟬が鳴いた丈で、快晴でないとは蟬は鳴ぬらしい。老鶯はしきりと鳴き、時鳥も

やつとやつてきました。
木俣さんがインドより五月廿七日付の手紙 六月十四日に戴く。中国經由にて六月末には帰国との事です。広く歩いた様子です。

337 (6/21) 雨なれど 友の恵や 桜ン坊

七号台風の最中でした。台風は雨量も僅、風も軽かったです。

若い日初夏の山へ登り駒鳥の声を楽しんだことを追憶します。過去を振り返らぬ私
が、最近はともすれば追憶することが多くなりました。父の死は廿四才の七月で、父
の残し刻煙草を失意の中、吸又吸たのが煙草との縁でした。九月両切の十本入りのゴ
ールデンバットが巻煙草との出逢いです。今年信州で新装の二十本入りをなつかしく
求め、味は違うが時々吸っています。母の忌は六月で、六一七月と父母の忌月が続
きます。

338 (7/11) 茎立し 慈姑の今日は 花咲けり

西国は洪水 東国は渇水、梅雨中に三回の台風 汗疹や蝨に眼縁はれ、冠雪は致し、
まだ休むことならぬ季節、散々です。秋に収穫へ期待は一つも有りません。
五六日 日暮蟬鳴く 後は絶え、雀も移動か姿なし。 照りの異変でせうか、嬉しいこ
とは二つ。箱に植えた慈姑が、十日花が咲く。台風後 畑に置いた小麦 九日に脱穀完
了。大豊作でした。十日終日霧雨 梅雨の便り。

329 (7/22) 茎立し 慈姑花咲く 梅雨続く

梅雨が戻ってから気温も下り、日照りは終ったが、異常な夏で散々です。それに冬以
来体調も限界がきたのでせう。世間から遠ざかっていたの生活ですから静かです。孫の
高校生が今夏は米国へ三週間行く様子。拙宅では米国行きは最初で、私は西原丈しか
知りません。

当方は八月盆です。その頃は不作ながらもご笑味を乞うものもできるでせう。 紫陽
花や合歡の花が盛りで、照りだして来たら蟬が少し鳴きます。

340 (8/10?) 慈姑咲く 暑さ戻りし 八月の空

・・・やつと暑さが戻り三二・三度 夜も室内二七・八度です。
慈姑が好く咲き、実が出来ました。誰も訪れる人もなく 写真に撮っても戴けません。
畑の作柄やや持直しましたが、主人がだめなら矢張りだめです。
木俣さん帰国 一ヶ月ぶりで御芳信あり。長い留守したことが持ち帰ったものの整理
で多忙の様子。雀の群も餌場を替たか 僅しか居ません。山のけものは街の方へ行

った話ですが、玉蜀黍はすこし掛かりました。蟬も少ししか鳴かず、雨蛙も今年は鳴
きません。これから平年に戻るか。予報では冷夏らしいが、どうなることか。
コピーしませんから返却のものを少し御覧に入れませう。暇なら訂正の処があるん
です。 整理すればいろいろ有るんですが、もうすつかり気力も落ちました。

341 (8/15) 気候の変化が激しいですね。十三日午後の夕立より涼しく、昨十四日は

終日霧雨で、重ね着したい有様です。 野菜も暑さや水分不足か、何も味が悪く失礼
なものばかりでした。 次に、終戦後の文化誌 コピーして送って戴き有難く思いま
す。まだ物資不足の頃のもの、その頃、県の文化人の集まりでした。私は、狐・河鹿
蛙・蝮・ウド等のたしか随筆を書きました。山村人としてです。

俳句は自由律で、二・三年で終り、その後は今の俳句を自分流で退屈しのぎに綴る次
第です。 何しろ学歴はないし、基本から学べるものがない私です、いつもまとまっ
たものなしです。探せば約五十年間のものがあります、世に出すことも 後に残す
つもりもない私です。百姓も西原の皆好まない土地で 生涯抜けられない宿命に自分
を慰める一〇(?)の空白を埋めるためでした。

木俣さんには帰国一ヶ月以上になりますが、まだ便りを書きません。
暑と八月盆前は、疲れやら、又季節野菜作りにも追われて、九月頃に至らねば落着き
ません。 硬種(甲州)玉蜀黍はこれからです。雑穀作りも今年は止めてシコクビエ
丈です。是は鳥の防除の網をかける予定です。他は種丈でも二・三少量作りまし
たが、もう来年は流石の私も百姓は続けられぬでせう。

慈姑の実がとれそうで、実蒔も可能かしら? 北海道の小豆を僅 六月に作りまし
らもう収穫できます。普通の夏小豆は一緒に作りしに、花が咲く処です。是は秋彼岸
頃収穫です。秋小豆は十月下旬です。大根・白菜は立秋より一週間過ぎです。
(埋文センター) 縄文土器の野焼 人氣が高い様子、盛会を祈ります。

342 (8/29) 素枯れたる 慈姑佻しく 鎌を砥ぐ

ご忙殺の中をお出掛け(340 慈姑の写真撮) 思いも及ばぬ事でした。「縄文中期集
落の景観」論文、「北の縄文世界」等は、いずれ疲れが抜けたら拝読いたし度思いま
す。 不安定な天候と老化した体調 御覧の如き有様です。お礼もできず、痛み入り
ます。 全く三人に逢えるとは嬉しいことで、皆元氣そうで何よりで、久し振りで世
にでたような気がしました。 十四日無事に帰宅されましたか。 あれから雑草除
きで、濡れてしまいました。 遅れて今日ソバ作りで、霜の遅れを祈るのみです。ま
だ大根や漬菜も作るですが、運まかせです。
町の夏祭で(長女宅に・・・) 四泊したら 慈姑すがれ了って残念です。

暑と皮膚が弱い精かアセモに苦しみ、涼しから出掛ると蚋や蚊にやられ、散々です。

343 (8/30) 百日紅が咲き 赤蜻蛉が訪れます。写真早速お送り戴、有難くお礼申し上げます。今年初めて撮って戴いた次第です。良き本年の記念です。四五日留守したら慈姑乾上て台無しでした。枯れ切った訳でないので、種子は実が入るでせう。来年は元氣なら実蒔する心算です。御多忙をほんとうに痛み入ります。

不安定な天候でやつと大根とソバを作りました。ソバ作れる場所はまだあるが遅いので終りにしました。木俣さんにはまだ手紙も書きません。二百十日の厄日が近づきました。雑穀二百十日迄に出穂しなければ実が入りません。夕立ちで里芋は持ち直したようですが、芋煮会の時代でもなく、芋掘りへはだめでせうね。

344 (9/17) 暑さから一転、秋冷になりました。秋雨―秋祭と休日続、やつと我に戻った気持です。残暑の照りでソバ・大根・菜類は発芽が悪く、畑一杯になりません。

六月の照り依頼、雀の群は餌場を替たか僅残っているのみで、妙なもので九月下旬迄戻らねば、防除の網張不用です。進んだ作物、遅れた作物と異常気象は複雑で、甲州玉蜀黍(硬種粉用)完熟、半収穫。シコクビエも植付が遅れたが、収穫は早そうです。苦しんだ汗疹もやつと治り、汗や眼ぶちを虫さされて視力が悪く、老妻も毎日手伝いが無理だし、自分も限界で、矢張り見るべき作物は出来なくなりました。休養五日目になりましたが、それが仇になるか。疲れか半病人といふ始末です。台風19号は無事通過、20号はどうだろう。

345 (9/27) 秋霖とでも申しませうか、十三日より秋雨となり、はじめは喜んでいましたが午後は急激の低温、足腰が痛むので難渋しています。二〇度以下になると寒です。八月中旬から九月上旬までの照りで、大根も菜類も発芽が悪く、再三種を蒔直たりしましたので揃いません。それでも自家用には足りるでせう。

多少細雨が降っても玉蜀黍を収穫して稲架にかけますが、雨よけ(屋根)を作るのが大変です。玉蜀黍は上作で、シコクビエも十月上旬収穫で、台風がこなければ倒伏しません。ソバ花盛り、是も倒伏せず。只一部は照で発芽せず徒勞です。百姓は何年やっても天候次第です。全部満足した年はありません。私も作物を作るより植林の方が好きで、木は年々育ちます。だが山村に生きて、好きな植林も植えたい程の自分の山はなし、百姓を始めた頃の記念樹が、柏が一本、山桜と檜が一本、七十年になると大木になりました。・・・

今年になって雨で休日が続いたのははじめて、低温で苦しんだ汗疹も治り、視力もどうにかよくなりました。・・・十五夜に里芋の試食で、例年の収穫期の如く実が入っていました。随分小粒です。戴いた論文やつと読みますが、私には難解です。縄文時代の勉強ですね。

346 (10/20) Yさん(チエコ出身の考古学者でイギリスに留学時にプラハの春事変が起き、祖国に帰れなくなり、米國に回って織物を研究しているときにEさんと知り合っている)に日本に帰化。この当時は伊那・大鹿村に住んでいたが、その後、中川村に移住。ギリシヤからヤギの毛を輸入してカーペットを織り、陶器を焼き、さらにストーブ製作等で生計をたてている。私が埋文センターに従事するとき、縄文土器の事を知りたいと南瓜を土産に訪ねてくれて以来の親交)と対照的な面があるような気がします。Yさんは数奇的な運命に生きていますね。何だか渡来した縄文人のような気がします。きつと心豊かでせう。郷関を出たこともない私は、一面に憧れもあります。・・・

当方は快晴にて、十一・十二日のふるさと祭りは大当たりでした。私は鶴川を挟んだ前夜祭の長い行灯を見に、今年になり始めて夜道でした。翌日は年に一度人前に顔を出す私で、展示コーナーを見たいばかりに出掛けます。西原の文化のパロメーターが判るんです。車が多いから用心して行ってきました。来年は生きていてもだめかも知れず、見納めかと元氣を出して、独りで無事、戻りました。年寄りには周囲に迷惑をかけたはと注意します。

十一日午前中 末子がきたのを幸いに、是非行って見たい思っていた隣村小菅の松姫峠(千米位の峠で大月に連絡の道)に車で行きました。都留の山波が良いです。十五年振りでした。木木の育ったのに驚き、眺望に障りました。帰途、急激に変る小菅村を一周しました。多摩川の源流 温泉の開発見てきました。三時間の急行でした。良い保養でした。

347 (10/23) 快晴が続く、慈姑は枯れました。代わりに菊が咲き出しました。・・・十月廿日迄に里芋を残し、他の作物は収穫終了です。ソバは少し早い、鳥にやられぬうちと刈、稲架に架けました。例年なら初冬頃ですが、畑で干してある玉蜀黍を乾いているので、畑で木槌で叩き脱穀しています。いつまで続くかこの照り、まだ作りたい菜類があるが是ではだめでせう。

今更芋煮会も終わりで、里芋も必要ないでせう。十一月下旬 蒟蒻でも送りたい考えです。なにか雑穀の粉でも添えてやりたいです。晴天続きで取上げから脱穀迄続けてやることも珍しい年です。廿日ソバを刈っていたら、黄色い蝶がむつみ合で舞っていました。五千年前のコメ粒が黄河流域に在った由ですね。

348 (11/7) 紅葉の盛りです。鳥海山麓の広大土地にSさんの健闘に驚きました。私も若い日に似た夢を・・・「たまのよこやま」有難くお礼申します。 鳥ジャーナル・インタビュウ素晴らしく、十年前とは格段さがあって、貫禄があつて、大成のタイプになりましたね（これは木俣さんのこと？）・・・

晴日続きで畑の稲架に干したのも乾き、取入れ終り、十一月一日。三日最後の里芋種穴を掘り貯えました。妻も私も急に老化して、何をしてもはかどりません。種子島から三万年前の生活跡が出土したといふ。中国から五千年前の米が出たといふ。五―六千年前に自然のものを採集した外植えて食するものがあつた気がします。縄文人に付き勉強してみたいが、老て及ばず。スマトラでは雨期に入らねば山火事が消えぬという。私には不思議に想うことばかりです。

349 (11/20) 晩秋から初冬に移り、快晴になったら木枯しが吹き。十九日の朝は室内が七度で戸外は雪の如き霜でした。 短日、夜長ですが、皆さんお元気で毎日お忙しくと存じます。

蒟蒻を掘りました。金子さん、滝川さんにもご面倒でもお願いします。柿は照りで作ですが、柚はなりました。少し早いようですが、三ヶずついれました。小豆、是もよろしく。

秋小豆脱穀しました。暇にならねば精選出来ません。今シコクビエの雑穀丈ですが、臼も機械も老夫婦は使えず、縄文人が石で精白する如く、シートの上で木槌でたたきます。体調は依然すぐれず、製粉所へ運べず、玉蜀黍・ソバ等 十二月中には製粉を何か送れませう。

いつも面倒をお掛けします。来る人も行く処もなく、人間時には人と語り合いたい。老妻あるんですが

350 (11/21) 頬冠り 腰をかがめて 落葉掃く

廿日は県民の日で晝より冷雨で炬燵です。今縄文人として、又粗末なものを送りました。 今日も霧雨です。寒（い）と元気がありません。 落葉がはげしく初冬です。金子さん・滝川さんにもよろしくお伝え下さい。 七日 雪虫の舞をみました。

351 (12/6) 雪虫や かこい大根 埋めけり

もし連休暇でしたら蒟蒻料理と違って送った次第です。金子・滝川さんは何に挑戦だったか？ 私は相変わらず、人眼を憚った処に密かに仕事です。天候が悪いので、世

捨て人も弱ります。

十二月一日 学校時代からの旧友が、急に嫁さん運転の送り迎えで中川宅訪問、三人で昔話三時間です。長作の一つ年長の人で細君は西原より嫁ぐ、夏に他界は聞いていました。私だけ妻があることが幸福なんです。きつと独りになると侘しきがあるのですね。 春には又一再会の約束で、彼は私たちより丈夫です。孫が矢張り大学で来年は成人なんです。

二日より寒が強く晴れました。明朝は0二度か0三度でせう。

352 (12/15)

山茶花の 朱を落しつつ 日を惜む
世にうとし いか師走か 疼く腰

ご忙殺のおり、本年も高幡不動尊の暦、ご恵興 忝くお礼申し上げます。 どうぞ拙宅も倅の義父 今秋は他界に依り喪中として 拝年の祝詞は遠慮致します。 ご無事の御越年祈りあげます。 いずれ明年もご面倒かけるでせうが、ご厚情をお願い申し上げます。 天候が回復しましたら、格別の寒です。

金子女史 テーブルウェア入賞の由 陶芸 料理、みんな一流で感服します。想像は尊いことですね。

353 (12/20?)

あれこれと 思うばかりで 年はゆく

冬至が間近なので柚子を採りました。今度の方が熟しています。小さなのは風呂に入れて柚子風呂です。面倒でも金子・滝川さんと三人分です。

猶食べる方は無かも知れませんが やつと玉蜀黍粉が出来ました。粳種ですから粘りません。小麦粉を加えてください。小さな餅にして、後で味噌を塗り焦がして食べてもいいです。

天候悪いし体の具合も悪いし（シコクビエが今年には収量があります）、今日になり脱穀です。老人は臼も機械も使へず、縄文人が野生稗を石の上で叩いた如き、ワラ叩き槌で気まかせにたたきます。製粉来年のことです。

東北は雪ですね。雪がふれば冬眠ですから、遅れて貰いたいですね。 日中文働きます。ご笑味下さい。 流石に気忙しいです。 お忙しくも、蒟蒻の生球は年間が最高で、一月になつてでは味が落ちます。

354 (12/20?)

はや冬至 ゆず風呂の香へ 身を浸し

粗悪な贈りもので御面倒をかけました。それでも冬至を柚子を間に合せたかったです。暖冬と思いきや、冬至から一変厳しい寒です。 早速御返礼痛み入ります。クリスマスというより天皇誕生日に妻と戴きます。義理堅さに感激です。お礼迄

21(日)には長女と三男が歳暮に来て、トンボ帰りでした。・・・私は世間離れの生活ですからも変わらず、淋しいといえれば淋しいが自分を大切に日が楽しめたらいいです。なにやら気忙しい、それが年尾ですね。

平成十(1998)年 降矢88歳

355 (1/7) 雪もなく 親山小山 かむる雪

木俣さんから暮に10号雑穀研究を戴きました。それによると「国際雑穀学会」を創立準備のようです。インドのシタラム博士と二人が先頭に立つての一年で、先年シタラムさんは木俣さんと来日の折に拙宅へ尋ねられた人で嬉しくなりました。喪中で静かな正月でした。然し孫が成人式で、一番私の喜びなんです。まあ上々の倅年です。

暮の二十一日 町教育委員会で西原の原・郷原遺跡の発掘調査見学会がありました。敷石住居跡とのこと、約三〇〇〇年前縄文後期です。出土品ある由。私は残念にも知つての如く歩行困難故行ませんでした。

356 (1/22) 冬ごもり 雪で砦をめぐらして

今度の豪雪は恰も東北の様ですね。近年 雪では困ったことが無いようですから、この記録破りで戸惑います。二回迄は降った雪でしたが、三回目は雪の置場もなくそのまま、車道は平常に戻りましたが、畑への道、山への道はそのままです。掃いて積上げた雪は砦のようです。冬眠ならず、籠城で生活線にも響きます。雨が降ったら余計に堅く凍り、手がつけれず、考えると夏から姿を消したけものや鳥達はこの雪を予知して、雪の積もらぬ土地へ移動したとも思えます。山野には餌は求められません。雨の後に雀が一度来ました。どうして一羽居るのか、考えると不思議ですね。

雑穀作りも危くなりました。木俣さんも悲壮な決意を漏して呉れました。雑穀ばかりでなく農そのものが岐路にあるように感じます。

私はもう先は短いし、老化してどうにもなりません。淋しいことです。まだ雪は降るでせうが、いつ畑仕事ができるか。四月に入ってからかしら・炉端で育ったので、炉火が恋しい。炉端が一番心なごみます。

357 (2/3) 節分や 友のめぐみし 魚かな

雪の砦が低くなりました。寒明けますが、南面の山は地肌ですが裾辺は雪で山径・畑

道はそのままです。山里は寒さ厳しく、日向の南枝梅咲けど萎んで落ちました。庭の盆梅は雪の中から掘り出し、家紅梅の如き蕾です。子供持つ親は子供が巢立つと侘し日が続きますが、それが人生でせうか。私も妻とふたりで長い間過ごしました。・・・時に今はご子息と二人の由、休養の時間なしですね。是から年度末で、私が雪前と同様なんです。東北は雪ですが、テレビで見ると準備が整っていて感心します。近年、雪に苦しまなかつた丈に迂闊なことでしたから、良教訓です。果樹地帯は被害が大きいようです。西原でも植林に多少被害があるようです。後遺症は是から知るです。

彼の野菜畑迄で毎日二時間位凍た雪を掘り起しやつと畑迄行き、大根を掘りだし、白い茎のみの葱を採ってきました。他の雑穀を作る畑はそのまま見に行けず。

十二月三日 約一ヶ月遅れて作た小麦、雪前に発芽して青かつたか、一ヶ月以上雪の下にあつてはどうなるか。是も私の初体験です。最初から駄目と思った試験です。私は是が生き甲斐で、何か新しいことを試みたい老人です。その為生き残っているでせうか。

358 (2/23) 残雪へ 春呼ぶ雨が 今日ほふる 節分の 凍りてピッケル ほしき径

今度は雨になり、日向は雪が消えました。・・・十四日の好日に畑への道の除雪に行き、やつと凍り雪を掃き終り、バス停の傍らで一服していると、数馬(武州)から三頭山へ来た登山家と一寸話す。本格の登山の支度で、ピッケルを持ち、靴の上にカンジキを 是ではすべらないと見られました。といって、今更私が求める訳にもゆきません。若かつたならです。翌日は又雪でした。それでも山畑は六分雪が解け、一ヶ月遅れ作たライ麦は健在でした。降らないが乾風の方が悪いらしい。兎も角 五十日も雪の中でした。初体験でした。

十九日の好日の日は、三年振りで賀曾利さんが妻君と同伴で来ました。私が是非連れて来ることを乞っていたんです。・・・賀曾利さんが地球を駆け回る原動力だと語りました。木俣さん・安孫子さんと三人で語たことも聞きました。白芳館へ宿泊の由でした。

暇な上、仕上がったので、小麦粉とそば粉を少量送ります。・・・小麦は十五年振りです。夏 実の入る作物で、思った通り 雀群にやられませんでした。麵類が一番内地ものは好ですが、使う折は外輪小麦と交るといいます。面倒なら天ぶらの衣も好し、味噌汁にはみ込で水とんでも早くいいです。野菜を多めに入れて。

五十日(の雪で・・・)運動不足で体はフラフラです。春の畑の準備も少しもやれず、今年はどうなるか、何かもう送れないかも知れません。

追伸 私も妻が娘の処へ泊りに行き、この処は独りで、仕事は一杯ですがまだかか
ることもできず、夜はテレビを見、本を読がすぐあきて、自分をもてあましフト縄文
人の冬の雪中の生活を想い、私は幸福なんだと感じます。鳥も来ない大雪後です。
雨が降り暖を感じたら僅 鳥かげも見ます。三月が待ち遠しい。お天道さまと一緒
なら独りでもいいが今日廿三日珍しく晴天らしい。

259 (3/10)

雪掃いて 犬と語りて 雪ばれや

三月一日も雪十センチ 五日又雪十センチ。

「たまのよこやま」有難し 処で帰宅しても誰も居らぬは空虚ですね。然し晝間忙
しい毎日はいいです。妻が娘の処へ十日程行き、晝間は独りでした。孤独には慣れ
ていますが、雪や雨で家居は辛かったです。日を楽しみながら、日向で何かやってい
れば満足ですが、家にポツンとしている退屈は格別です。ふと豪雪地帯に住んでい
た縄文人の生活を想いました。一月の豪雪一ヶ月の経験で特に考えました。鳥やけも
の影もなく、雪のみ。一年は二ヶ月は雪掃き丈しませんが。三月もよく降る
が、日脚が伸びたので日影が段々せばまりますが、北面への道はどうしても雪を掃か
ねば 残雪が通るのは不都合です。雪の翌日はまた一日雪掃きです。梅が満開になら
ず、艶のない花です。

他所は暖冬で花は早い様子で、土佐の友人が南国でも珍しい早い春を知らせて呉れま
した。

良き友の導きで私は本当に幸せなことだと感謝しています。野生児ですから、日を
浴び、自然と共に生きているんですね。然し体は修理の方法も無く老るのが当然です
ね。

木俣さんも疲れた御様子ですが、私に逢いにも思っています。若ければ私の方で昨年
中に尋ねられたんですが、・・・桜は四月下旬に咲くかどうかですね。

360 (5/1)

葉ざくらや 妻の葬すみ たそがれる

晩春からあつという間に初夏になりました。筈をご笑味ください。三人で適当に分け
てください。私が掘りました。

初七日が過ぎ 晝は独りです。畑は鋤を置いたまま一度も行きません。一ヶ月です
ね。

私のことは心つかい無用です。皆さんのお健かを念じています。その内 又 お便り
します。連休を楽しんで下さい。(奥様は 4/22 逝去 5/2 届く)

361 (5/6)

亡妻の事、電話で大体申し上げました、如くでした。

三月廿七日発病二週間入院 退院四月九日二週間で死去。入院中は子供が看護交代
皆忙しい時代ですから大変でした。退院後は私がつきつきりで看護しました。

葬儀の準備に家をかたづけ 是が大変でした。長男を中心に姉弟で仲良く協力 実に頼
母しいことで、私は見ている丈でした。近頃は葬式も近代風で町の如き。近隣も誰
もが勤めですから 忙しい準備なんです。姉弟がよくやって呉れました。亡妻も
満足して成佛したでせう。

通夜 葬儀 初七日を一切二日ですませ、本七日に近所と深い親類ですまし 子供は夕
方一同帰り、後は四人家族です。

何しろ昨年頃より私も体調老化した上に正月依りの大雪で すっかり足腰が委きった
上でのことですから、看護も大変で苦労かけた妻のため尽しました。畑の方はもう四
十日そのままです。

今後の私は 畑も捨てるか、是から一生懸命に身も心も鍛えてみてからです。自家用
の野菜でも作れる程度でせうか？ 第一に余り家の世話にならず 余生を過ごすこと
です。幸子供は親より 生れました社会人になり、自分の事のみ丈のことで、苦勞
した甲斐がありました。

どうぞ私の事は心配しないでください。疲れと体調が戻ったら、又 申し上げられ
ませう。病後の如きたよりです。お許しください。

次に句集についてですが、お預かりした句集に関する資料は、思いながらそのまま
で、訂正も重複分も抜かず、推敲も朱も入れません。それは体調不相応に働きすぎ
て疲れるがひどいからでせう。もう三年程 妻も私も老化して 雑穀作りや試作を
やめれば良かったかも知れません。生き甲斐とばかり調子づいた面もあり、妻は特
に三年程弱くよく休ませ、独りで頑張ってきたのです。

それでも句集を作って戴くとしたら、私は十五部位入用で、句集費用一部にと貯えて
置きます。残そうとしないが三倍や四倍は駄句を作ったでせう。散逸して(いるの
を)集めれば一〇〇句程度拾えるかも知れません。

木俣さんとは三十年位の親交で、今では長い一人でせうが、四月(九日)に戴なが
ら、そのままです。申訳ないと判っているんですが、心・身も空気の抜けた風船のよ
うなんです。そのうちお詫びします。

十日頃来て下さる様ですが、私の事は気にとめず、西原の新緑でも眺めに来て下さ
い。私はまだ畑に出る気なく、フラフラしているでせう。寝たいですが、これから鍛
えるために毎日歩いたり、僅の仕事求めています。日中は私は独りで、お茶も出
せぬかも知れません。

妻の死の侘しさはさりながら、不甲斐無いが恥ずかしいです。
ただたどしい便りになりました。お詫びします。

362 (5/18) 牡丹だよとはいいつつも 風さつき

(「雪虫」所収 五月十八日までの句)

すつかり夏です。十日お繰合せて御来宅お礼申します。

亡妻への焼香忝し、又、野焼きの逸品、私に過分の記念です(金子さんへの文面?)。当日は留守と思っていた俵が在宅にて、後で散々怒られました。私のみにては茶さえ出せぬ始末です。晝飯携帯の訪問、今後(は)畑の近くの民宿かで、前より人数や期日が判っていると予約して、そこで休息して晝飯を仲良く食べませう。部屋は広し、農家ですから私の生活も違ってきました。土間は片付け食事は一緒にになり、何やら自分の家の感じになれず。

五〇日振り畑に出たが、手の下しようなしです。体は一向に回復せず、新盆に何がとれるか。キュウリ・ナス・玉蜀黍・南瓜・インゲンをやつと作りました。疲れてお礼遅れお詫びします。

263 (6/4) 六月・・梅雨入りしました。多雨高湿で梅雨まで早いせう。何時

もご多忙と存じます。十日に鄭重にも焼香して戴いた日に畑を見て、翌日より野菜作りにかかりましたが、雑草は茂るし畔も畑道も草一杯で、何からはじめたらいいかといふ次第でしたが、衰えた体は駄目です。加えて疲れて体調が悪くなるばかりです、それでも毎日畑に出て行きますが、僅の時間なのに家に帰るとグツタリして何の気力も有りません。

こんな訳でそのままです。今日終日小雨で気温十八度です。半日床に、午後やつとお詫びを書く有様です。木俣さんも五日付けで鄭重なお手紙を戴き(乍ら)そのままです。どうも百姓も終りです。せめて本年のみはとかかってこの次第です。追って改めて申し上げます。

多雨高湿で小鳥も戻ってきました。猿や猪も山畑へ又、出る話です。然し初夏の時鳥はまだで、松蟬がまだ鳴きません。昨年は雨蛙が一度も鳴かず今年は雨蛙鳴くかしら、妙な時代です。

264 (6/15) 木俣さんから五月九日と六月七日にお手紙を戴き迄 返信を一度(も)

出し(てい)ません。句集のことでお急ぎの様子

苦し(い)中 やつと二日かかって 句の方は直しました。ご多忙中 痛入ります。改作すればよいですが、いちど 人に発表した句ですから そのままで駄句でいいです。私の人格の現れですから。取り急ぎ 句の返却迄

365 (6/23) 春雪の 山又白し 畑斑 (三月の句です)

取乱したままの便りにてお詫びします。句稿も満足でありませんでした。「武蔵野の川」論文、淋し折に拝読させて戴きます。

廿日は暑い日でしたが、足腰の痛みより朝眩暈(めまい)がするので終日家居でした。最近の頭の方も悪いので特に注意します。ほんとうに異常気候といい 私も晩年といふことせう。

木俣さんへ幾度か便りを書いても破つて了ます。

廿一日 三時より雨 一ヶ月遅れては何かを僅作ります。雑草を取るのに手間取りヤツト夏小麦、甲州玉蜀黍を少し作る。三月作ったままの大根、ジャガイモ、キャベツがとれました。十日御来宅より他には子供が二人来た丈 早二ヶ月は孤独です。寂しさにはなれました。御元気を祈る。

366 (6/23) 梅雨も明けないのに梅雨明けの如き猛暑が七月初より続き、全く異常

です。

六月廿五日 今年になり 便りのなかった滝川さんが早朝 今日お尋ねしたい由電話で 独りとの事、驚きました。承諾しましたらバスで正午頃来宅 準備無しで僅休息し飲食店に行き中食を共にと思つたら定休日にして 前の饅頭屋で饅頭を求め二時近く別れました。終バスで帰るまで時間あるので聞けば それより中川さん宅へ、それから 近くの一宮神社に参拝に来た様子。友人とか単独か登山する様子、北、南アルプスへ登り、最近は大月市の岩殿山へも来た由。

木俣さん、安孫子さん、金子さん、滝川さんと、四人共どうして肉親の如くに親しくなったのでせう。それと共に 私の駄句や手紙を全員が保存してくれたことも不思議です。他によく文通したのは賀曾利さんです。県内には雅友、農友もありますが、保存は聞いたことが有りません。戦前から畏友たちは何人も(居ましたが)生きていません。先立って了ひました。

句集を作つて戴くの散々迷惑をかけていることは承知してはいますが、何という事か、私には変化の多い年になりました。せめて一年か二年前の私であつたらと廻合せを不運に思います。私はどうしたらいいか、苦しんでいるんです。西原では農人が句集を出版して戴くことは前代未聞の事です。

私はどんなお礼をしたらいのか、考えが及びません。それにお礼の一文も当然加えるのでせうが、今はそれも書けません。矢張り頭の方は衰えて了ひました。私の語ることを傍で筆記願わなければ、まとまりません。

十二日は涼しいので投票に行きました。小学校が投票所です。今年になってはじめて橋を渡りました。徒歩では一番遠くまで歩いた訳です。学校の花壇や運動場を散策、

それから久し振りに独り河原を楽しみ、照りで弱った草の中から元気の悪い月見草をやつと探し出して採って帰る。今日花壇時代か、何処の家にも植あり、帰途熱心な家により茶を戴たり、世間話したり、とうとう小雨が降り傘を借りて帰宅する(と?)大降りになりました。翌日から低温で、梅雨が戻ったでせう。十日夕方に野菜採りに行き、帰って着替えたですが、それが原因か風邪で十三日から寝たり起きたり、体が痛み、こんな時は妻を想い出します。十五日にやつと傘を返しに行き、又世間話です。——中略——聞くと、今年は山のけものが戻り、鳥獣も暴れだした由。東の初戸、田和あたりには猿や猪、西北の飯尾、原は狐やハクビシン居る由。中央の下城にも来はじめた様子、知らぬは私丈です。寝床でいろいろ書きました。

367

(7/29)

勲章も 定年もなく 句集かな

「多摩のあゆみ」有難う。句集の素晴らしい見本 感謝のみです。

十三日より風邪気味で体全体が痛み、それから毎日半日寝、午後起出し庭にでて歩てみたり、すると風邪薬で口内炎を起し食事でも大変で、以後今日迄です。もう寝込のかと思つたが、ここよくなりはじめました。

畑は無人でどうなっているか、仕事も何も考えず、何とか自分の事はと努めている次第、いづれ具合がよくなりましたら又申し上げます。ほんとうに駄目かと心細い有様でした。

長い戻り梅雨も今度は明けて本格の夏でせう。七月のお盆だったと存じます。公私ご多忙の折から 手前勝手のみにて お詫びします。

早速 俳句 雪虫の見本お送り下されて、何とお礼申し上げていいでせう。今更申すべきでもないでせうが、一度人に発表したものですから 表面にだしても裏面に止めても結果は同一と想つて何という尊いことであろうか、句集を出して戴くとは。木俣さんにも何と云ふご厚志になることか。安孫子さんとは、前世からの宿縁でせうか、人柄も短いに肉親以上の仲になりました。珍しいことでせう。五月十日植た慈姑花が咲き美事です。

次に前に述べた通り、十五部は入用で、他に寄贈すれば後十部位は必要かも知れず。西原は部落に必要なしです。地方の文化を解する人や私が郷土史にも関係があるんです。私は無名人で終る覚悟でした。世に発表は誠に恥入ることもあるし、後世に残るかも知れません。恐らく考え方や見方によれば、私丈で五十部は必要かも知れず。せめて実費位は受取つて戴いです。

平素の私ならお礼の一文を書きたいのですが、とても整いません。お詫びします。是非 私を困む人達よろしく

368

(8/20)

八月は高温に復したと思うと午後は大雷雨で洪水です。バス道路も寸断、交通止になり、知の如く多摩方面も同様だったでせう。この雷雨が終たら、又梅雨です。曇天、雨が時々降り、私も初めての経験です。東海から西は猛暑、関東から東北は不順続 凶作でせう。

私は前便の通り 寝込む寸前ですが、具合が少し快方です。ところが妻の新盆の支度も整のはぬ十日頃より来客があり、やつと家を片づけ 私の居間も併せて客居間にします。十三日から十五日迄は賑やか 歌こそでないが大宴会の有様 実に有難いことです。しかし私の居場はなく、多少お客の相手をしましたが以前より親しい人は僅で、全く閉口でした。親類も方々に暮らして、三十年振りという甥やら姪に逢たり。お盆が済んだら気疲れで転居のようですから、又片づけたものを前通りにする苦しさで、ご返事遅れました。やつと筆記用具もだしました。

八月十五日は終戦記念日、大分空港で終戦だった頃が想出されます。戦死した人や当時の悪夢が甦ります。丈夫でも八月は精神的に苦しい月です。

お盆が済んだ十七日は阿知河原(古家実氏の民宿)を訪問して(祝賀会の)都合を聞く予定でした。古家氏は私より大部若く六十才かでせう。長兄は私より十三才若く良き友人でしたが戦死、実氏は弟です。又古家氏は句友でもあり農友で、私の農法の一部を後継してくれるでせう。猶 拙宅の父とは同族であり、西原の最後の名主の旧家で、長い親交の間柄です。拙宅同様、昭和十九年三月類焼です。

九月四日が皆さまの都合が良い御様子ですが、・・・私は涼しくなる九月末か十月半なら好都合なんです。都合又至急申し上げます。

369

(8/23)

遠雷や 赤とんぼにげて 百日紅

廿一日午後曇がでて涼しいので三時頃、古家実氏宅訪問。農友であり句友ですが、四・五ヶ月振りに逢ので、話はいろいろありました。九月四日の件 承諾して呉れました。人員数と当日の時間を電話で二日前迄に直接お申込みください。

(昨日午後雷雨 軽少でした。今日は話込で(いるうちに)しぐれてきて車で送つて戴く。五時に帰宅したら雷雨になりました。お盆疲れと半身不随ですから急がねばと心配でした。句集のマツプにも「民宿 阿知河原」でています。

370

(9/14)

初秋や 拙き句集 世に問はれ

今回(9/4)の出版並に米寿の祝賀を催して下さり光栄です。特に西原で私的に対し、朝日新聞(S記者が埋文センターに取材に来た折、安孫子がこの話題を口にしたことから・・・)が臨席は前代未聞の事です。木俣さんと安孫子さんには終生忘れ

ぬ 御厚志 胸一杯の私です。

木俣さんとは三年振りでした。私の話は尽きませんでした。猶S記者の対談に流石の私も堅くなりました。翌日 皆様と別れてより、虚勢を張るの元気でしたから神経を消耗してしまつて、虚脱とはこの事でせう。七日の雨は終日床の中でした。

次に、台風が上陸しなかつたからよかつたですが、上陸すれば大被害だつたでせう。九日やつと大型車が通れるようになった由。五日の帰途は町の祭りで交通が大変だつたでせう。西原も九月は秋祭りで、最近祭りをくりあげたり下げたりして土・日に行きます。一宮が十二・三日、二宮は判りません。田和は彼岸の中日、是で終りです。

敬老会もあり、ですから私は、祝賀会は十月半なら好都合でした。是から亡妻の彼岸で来客が多少有ります。家の整頓や掃除したり、準備です。

祝賀会には三人ばかり招待したい人がありましたが、私ともう萎えてしまつたというか、老人は駄目ですね。句集は十月一杯に発送が終ればよい予定です。何とか添え書きして送りたい人達が有り、心にゆとりが戻れば書けるでせう。その折、ワープロでお願いします。句集は私の半生の記録です。秘話を語るには二人だけで大勢では駄目ですね。

Sさんはじめ 皆さん、珍味の者や焼物(陶器の皿) いろいろ思いもよらぬお土産を戴き、何の用いも無く、お返しもできずお詫びします。木俣さんにお礼を述べただけです。記念に双眼鏡を戴いたが、十月にでもなり晴天が続いたら使用するつもりです。

朝晩は涼しが、日中は暑く九月下旬のようです。思いのままを綴りました。

371 (9/22) 台風で一日道止めで、十六日朝日の愛読者から私の事が出ていると寄贈がありました。記事を見て満足しました。―私はやつと疲れがとれましたが、被害はないが台風は風が強いので例の畑の隅の桐の枝が折れて畑通れず。妻の初彼岸ですから、今日やつとさつま初掘り行き 少し片づけた次第です。台風六号も近づく様子ですから。

雪虫ヤット十部発送しました。祭りだ彼岸だと心忙しいですよ。不遇でも失敗でも努力が足りない自分自身に反発して来て、神佛へも人へも救いを求めず、自分自身と戦つてきましたですから、句を作り畑を作ろうというのが信念なんです。努力して駄目なら諦めます。

八王子に今度住む三男が、父が朝日紙に出て元氣らしいと信州に住む二女(姉)に早速電話した由。十五日夜二女からその由の電話がありました。矢張り頑固親爺を心配しているんですね。自分はずいぶんやさしくなつたつもりなんです。子供達へは、雪虫は彼岸に来たら寄贈です。新聞の写真は元氣らしく幸ですが、虚勢張るから

後はグツタリですね。社の方からは何も届きませんが、

372 (9/26) コスモスの 抱きあつていて 嵐去り

九月も不安定な天候です。お祭りだ初彼岸だであれから何もできぬのですが、心忙しくて書いた手紙も四五日投函しそびれました。多摩地方も大きな被害はなかつたですか。西原は無事ですが桐原から町の方が雨量多く被害在つたですね。木俣さんは半頃は雑穀研究会で、シコクピエ栽培の多い大井川か天竜川の上流の地に行つたでせう。

朝日の方からはその後、何も送つて戴いてはいません。拙宅は山梨日日で、朝日の山梨版を見て送つて呉れる友人もあり、(雪虫を)送らぬより先に発刊を祝つた便りをいただく友もあります。只今廿部発送しました。予定だけ発送するには十月になります。

初彼岸の来客も多し。天候は九月定まらず、十月はどうでせう。

373 (9/28) 本日廿六日 記念写真有難く頂戴致しました。是も終生の忘れぬ思い出になります。朝日の方からは何も来ません。―新聞の力は怖いですが。記事がたのは敬老の日でしたから、記事を切り抜いて送つて下さる友人、記事と共に発刊を祝して下さる方、「雪虫」これから発送です。

西原を嫌い、農を嫌つた私が逃れられもせず、生きる為に農より他になく、酒でも呑んだらやけ酒で自滅するだけだつたでせう。宿命と戦うために句を作り、畑を作つたのです。句は自己の挑戦でした。句の良しあしや句集を作る考えも無かつたのです。無名で後悔もなく、自分自身にかたばよかつただけです。何だか奇蹟のように思えます。雑穀との縁も亦そうです。

天候は九月もとうとう多雨です。山形で昨年は三万人、今年は五万人の日本一の芋煮会とは、その大鍋も日本一でせう。東北もテレビでよく見ます。夜七、九時迄がテレビの時間です。秋祭り廿三日が最終、廿六日で妻の初彼岸も終り、来客も終り。新涼の候 是より十一月中迄が私の好季節になります。

374 (10/7) あれから双方来客も絶えた彼岸明けの廿九日 小雨の日に記念写真を持つてお礼かたがた古家実氏の処を訪ねました。すると安孫子さんから矢張り写真贈られて喜でいました。夫婦だけですすからいつも忙しいので、その後、民宿の客は知りません。天候が悪いから観光地も暇のようです。

「雪虫」手紙を添えますから送呈に手間取り、村も他所も郵送です。先日は局まで行き、本年三回目の川への散歩です。台風頃は増水が大きく跡が残っていて、まだ濁流

でした。ふるさと祭りは今度の土日です。地区敬老会は毎年十月、五日で、欠席です。この日彼岸は忙しくて欠席した末子が墓参に来て、私も車で寺から墓参で、済んでから帰りを急ぐ車で、今度は急行で川通りから初戸へそれから田和から中群山へ。ここは平野田休暇村につながる遊歩道もあり、小さな牧場もあり、西原の七分が眺められる眺望よく、十年以上行かない間に開発が進んでいました。高原ですから一度も見ないが、夜空の眺めは随一なんです。帰宅早々に銀行が忙しい様子の子供帰りでした。

雪虫は三十部送呈終り、在庫沢山あり四〇部越るかも知れず。新聞の力も大きいようで、反響もある如です。四日路上で「雪虫」を手にした旅人に逢て双方あゆみ寄り、先方は表紙ににている人だと近づき、私は「雪虫」の所持が眼にとまり、聞けば鈴木さん宅に週一度は行く由、金子さんや安孫子さんを知っている由。西原見に来たらしい。私は路上にめった出ないが、珍しい出逢いでした。

375 (10/16) 秋が深まりました。三日間の珍しい晴天は茸の当たり年の由で、友人とどこかへ茸採りにでもお出掛けかと思いましたが、論文で大変だった御様子。それなのに二面倒ばかりかけて痛み入ります。

はじめに知ぬ人から（「雪虫」）讃辞を戴きました。それは八王子の柵さんといふ安孫子さんの知人らしく人柄は判断できる。能筆で立派な人のように推定しました。知の通り私の句は心安らかに、友人達にのみ丈で、宿命と戦うための句ですから、是も雑穀の縁かとも思います。

それにしても十月もはつきりしない天候で難渋します。十五夜は雨で今年こそはと期待したのですが。

幸いに九日より天候回復で、十日・十一日のふるさと祭りは好天気で盛大でした。今年はまだもう出かけられないかと思っていたが天気は好し、無理して年に一度の人中に出る楽しみの祭りなのです。いつも云う如く、展示コーナーを見たいばかりで行くのです。書道・俳画・写真・生花・陶器等もあり、例年通りその人達と楽しく語り合いました。

特に町で有名な町議が居り、その方と今は土農工商の時代ではなく工商農になりました、但し士とは今は何を指すべきか、自衛隊でもなく政治家とはやめました。彼も政治家家中ですから。現日本は七割の輸入食で米の減反を成し残飯を出す不思議な国と論じました。世界には八億とも九億ともいふ食料不足の人達が在り、平和を盛んに叫ぶのも是は結構ですが、持つ国と持たぬ国の差がない世界の一つになる連邦でも成立しない限り、窮すれば自滅を待たず、必ず窮鼠猫を噛むでせうと論じやりました。私の苦手は新聞記者との対談ですが、他は持論を述べます。彼も神妙に聴いていまし

た。きつと西原には妙な老人が住んでいると思たでせう。

S様（朝日の記者） 御尊母様御他界の由、あの会に参られてより間なき事のように（中略）一寸妙だと思っていましたら、凶報を知らされ判った訳で。取材に参られた方からお土産を頂戴した事も珍しいことで、木俣さんと安孫子さんの支援とは判断していません。返礼を考えましたが折悪しく九月は秋祭りが方々に有り、且妻の初彼岸もあり、天候は承知の如くで、やつと上等の山葵が入手できましたので遅々ですが、笑味を乞うため本日発送しました。甲府支局ではなく立川支局ですから、是も理由が判りました。

376 (10/26) (中略) 廿二日Sさんから山葵の礼状共に当日の写真を沢山戴ました。実によく撮れていて記念に額にしたものもあります。Sさんも世辞か私との対話好感のようでした。

私は句に勲章なしと詠みましたが、今回は勲章を戴いたといふ事だと思ひます。感激です。名いらぬ無名の野人が勲章を戴くとは、未聞の事だと思ひます。虚勢を張って臨んだせいか、年齢より若々しい写真です。左眼は役立たずで写真は御覧の通りです。以前に甲府放送局からも取材に来て仲良しになり、二回程遊びに来て、本年も来たいと云っています。忙しい上に悪天候ですから「雪虫」を送呈する予定です。

377 (11/4) 会釈して 別れた畑を 雪虫が

廿九日雪虫が舞いました。冬の訪れの使者でせうか。天候は相変わらずですが、曇天が多いせいか十月は降霜なし。一日の十三夜は、今夜は名月かと想ふと夕方より曇が出て、夜半黒雲からのぞく月をみました。ものずきです。寒いせいか、ちよつと夜明けに雨が降った。濡れていて山は霧で、二日午前中は寝ていました。午後野菜畑にしぶでかけました。足腰は痛み閉口です。今秋は取上げるものは無し、試作したものも試植したものも無く、妙に張り合ひのない孤独感です。来年は狭い庭ですが、シコクビエ丈でも鉢に植えようかと考えます。それは春になってからの体調です。畑は雑草が茂っています。

句集「雪虫」は送呈終らず、お互いに疎遠になった友人ですから、一応長い手紙を添えます。根気も無くなりました。萎てくる体ですね。十一月下旬から寒に弱いから四月までは毎年ごとが大変で、果たしてどうなることか？

柵さんは名望家なんですね。能筆の手紙で判断はしていましたが、敬意を表した礼状を差し上げました。ほかにも二三、そうした方が有り、祝賀され、礼状を書くも勉強で無名人には大変です。

何処にも行けず、テレビを見て、先日は屋久島や白神山地のブナ林を見て、屋久島の

五千年といふ杉に驚きました。また今秋の紅葉を名勝地の奥日光、谷川岳、蔵王等を
楽しみます。当方、天候が悪いから紅葉だめです。テレビを見ると不景気らしさは判
らず、秋の行事は何処も賑やかですね。庭に来る虫も冬眠か僅です。黄色小蝶は
時々来ますが蝶で越冬するらしい。虫も鳥も友人です。独りが良い時と誰かと話し
たい時があり、考えると私は勝手な男です。

378 (11/12)

竹筒の 一枝山茶花 朱が冴る

雲は多いが雨は降らず、平年並みに戻りそうな天気になりました。鈴木さんの稲刈り
も終わったでせう。

手入れも柴刈りもせぬ蒔蒔 雑草を除きやつと少し探し出しました。室内におけば痛
みませんか、折を見て笑味ください。秋収穫物ありませんが、体調良ければ荒た
畑の雑草半枯れです。除て集めて乾けば焼いています。

「雪虫」思いもよらず 発刊して戴いたこと 米寿の年の勲章です。都留市の郷土史に
努力する窪田先生から讃辞を頂戴したり、桐原長寿村育てた古守豊甫先生（雑穀通じ
木俣教授と長い昵懇）も素晴らしいと賛美してもらい、お礼の手紙を苦勞して書きまし
た。過分の事のみで、とうとう遠い農友へはまだ送呈が遅れます。一文を添えるのが大
変です。何か少し仕事の真似をすれば疲れました。幸いに寒といつても霜来ません
が、短日であつという間に日暮です。

次に、前から尋ねて探した 群馬県榛名山の社司徳川二代將軍時代 三百年前に西原
から行った同族で、先代は昭和四十三年来宅。今回 嗣子が私の「雪虫」に私と語り
度、先祖地が恋しく、十一月十一日急に来宅しました。血が血を呼ぶとは、私が郷
土史に興味があつたので探した間柄です。西原寺や一宮神社など案内しました。
熱意があれば人を動かせるのです。しかし熱弁を振へば疲れ果てます。

379 (11/21) 十三日初霜 以来本格的の寒で廿日は初氷でした。

汐留遺跡の膨大なこと、丈夫なら一度見学できたでせう。東北の古い遺跡には驚きま
す。数も沢山有り、その時代の日本は私の思ったより開けていたんですね。現の日本
海とは違って、大陸から渡来しやすかつたと思います。

天候の精か、本年は雪虫が少なく、私の行動範囲（下城付近）では十月廿九日に初め
てで、気をつけていましたが、十一月十六日以降は見えません

（送ってあげた新聞記事をご覧になり・・・）雪虫がアブラ虫科とは意外でした。こ
の虫の発生する頃は農が忙しい時季で捕って調べる暇なしで、農人は単純なんです。
私は越冬前の交尾期かと推測していました。虻類かと思っていました。今年捕わけ
にはゆきませんが、資料作りの良い勉強です。何才になつても勉強するものですね。

380 (12/7)

まごまごこと 師走迎える 山の村

今日二日終日霧雨で午後から寝て了ひました。

先日は雪虫の学術資料有難く、あれより今年こそはいつまで舞うかと忘れず居り、昨
一日夕方でしたが、三・四匹雪虫舞っていました。まだ寄生する植物みつからないらし
い。調べると虫も真剣十二月三〇迄は飛んでいる。寒いと痛むのに、妙な私も人間で
す。

さて喪中の多い年で、是から喪中付年頭の祝詞欠きます。多事多端で末寿（？）
も終ります。ずいぶんお世話になりました。改めて厚く御礼申し上げます。

雑穀も作らず 新しい植物や作物も試作できなかった事は私には侘しいことで、孤独
には慣れていますが、自宅に住みながら他所にでも行っているようです。荒した畑の
雑草を刈たり、むしたりして焼いています。といつて来春この畑へ何かを作れるか
は判りません。

昨年は一二月一日に小麦を作り、小麦は刈つて束ねたままで、後に半分小豆を作たが
それもそのままです。

雪は十二月下旬からでないと掃く程は積りませんが、近頃の天候は当にならず。雪の
来る迄は雪虫の如く動くのですが、不自由な体は頑張りもきかず。四月迄は耐るこ
とは仲々です。

381 (12/24)

年の瀬や あれこれ追れ ひと日かな

注文の山葵漬が来ました（製造は友人です）。私の本年最後の贈物です。ご笑味くだ
さい。

廿一日より厳冬の寒です。寒いと痛むし、是から四月迄の長いのは困ったことです。
雪がないと日中は戸外で日が楽しめますが、・・・雪が降ると掃いても前の坂道は路
面が凍り 下る事は駄目です。生き残りも侘しさもあります。

妻が亡く はじめての冬です。正月は静ですが、孫達が学校から帰省を待っている次
第です。

平成十一（1999）年 降矢 89 歳

382 (1/4)

朴落葉 がさごそ小鳥 日を浴びて

本年は雪も暮から降らず 暖な歳末でした。天候はいいが景気の精か、誰もが多忙
のためか車はよく走るが正月気分すくない静かなものでした。

又昨年は葬式も多かった事もあるかも知れませんが、拙宅も賀客はなし、子供も男二人は来ましたが、一人は朝来て晝には帰り、他方は夕方来て一日滞在で帰り。職場は忙しい様子。孫は休暇で帰省しましたが、仲良し兄妹で、三人で楽しい正月らしかった。倅夫婦は一日置き位の休みで、相変らず忙しい様子。結局 正月を楽しむ予定はなく推定通りでした。

洗顔の 水ヒンヤリと 寒の入り

松の七日も済だので、賀状を戴いた方々へ返信です。昨年の大雪が教訓で、雪が何れ降るだろうと、正月も独りで炬燵に居ても退屈ですから、人の眼に着かぬ処で日中又は日を楽しみ乍ら仕事です。日没になると寒ですね。

白菜を七日に穫り終りました。一回に五ケずつです。七日のは寒波でやられました。箱に結て置くと腐敗気味ですから、二ケずつしぼり、日蔭に吊しておきます。野沢菜も余りを捨てるも惜しいから干葉に編でみました。是は食べたことなしで、干葉は蕪菜を干します。乾燥期ですから、良い出来でせう。――夏雨で紅花・食用菊も花は採れず、酢漬けも天ぶらも食られず残念でした。花を干して茶にならず、です。

冬の夜や 戸ゆすり風が ふと眼ざめ

(何回に及んで書いた妙な便りです) 雪虫の学術資料送呈に預り 雪虫は西原では「雪ばばあ」「山んばばあ」と呼ぶと思えます。八王子の櫛さん地方では「綿虫」「シロッコ」とも呼ぶ由、地方により「雪虫」「雪ばんば」「白粉(オシロイばば)」綿虫が多いらしい。然しアブラ虫の一種とは驚き、少し私の詩感が狂ました。私は交尾期すんで越冬に思っていました。新しく寄生する植物探しとは意外、害虫ですから。十二日 晴天でいつまで舞っているか、根気よく見守ったところかなり寒くなった廿日庭に数は少ないが来て、最終は十二月廿九日でした。

やつとはたき落し指でつまむとつぶれ、よく見ましたが綿がとれ羽根がとれた姿は、視力は悪いし、寄生している姿はつかめず、ハイ取紙へでも捕って虫眼鏡でも使い 針かピンセットでも使わねばだめでした。

次に畑の雑草を刈り 集めて燃して(十二月早々折々に)ところが雑草の中に作らぬシコクビエがあるので刈り出して置き、集めて脱穀したら、一升位あります。天理が実に不思議です。是は 来年は作りなさいといふ暗示に思えます。雑草の中で鳥も食残し、長雨の中残っていたんです。

鶴蔭の 親山雪なし 初日さし(元旦) 芥子八九才数え

本年は男性で最高齢者としての拜年ですが、衝撃です。それに二日は兄が他界。司法と農で、住む社会が違うから兄弟愛は薄い。それでも生きていくことはお互い心

の支えでした。甥三人あるが親しんだことなし。葬儀は倅と他の子供と一部の甥達で、老人同士ですから十年以上逢っていません。今年も亦多事か、昨年と違って日照かしら？

383 (2/8) 立春や 庭へ風花 ちらつきて

立春から厳しい寒です。木俣さんは、三月はタイだそうです。八月はアメリカの由、都合がつけば春には訪れるそうです。昨四月は会えませんでした。独りぼっちで、冬で孤独には慣れていても暖房のない部屋は侘し。――処で私に同情して南穂高の次女が、暖房があり暖だからと云って、九日に外孫が自動車で迎えに来ます。信州の二月は初体験で、行ってみたいと好か悪かです。三月下旬ならいいですが。

一月廿日雨の翌日 暖いからといって珍しく交友が訪ねて呉れて 日盛りに二人でゆつくり語りました。嬉しかったです。寒いといっても雨がなかったので、日を楽しんでいます。春になって体調が良ければと思えます。退屈していても(眼が悪いので)便りを書くのもなかなかです。

384 (2/20) 安曇野の そらの青さも 春めきて(浮く曇か)

二月九日から厄介になっています。十四日より好天気で憧れのアルプスや白馬の曇を戴く山々の遠景を楽しんでいます。白鳥や鴨の集っている犀川も珍しい情景です。暖房があるので暖です。戸外は西原よりやや寒いが日照時間は長です。又 天気が崩れそうです。三月までには帰宅したいですが、孤独はなれていても、日中は何処に居ても独りぼっちです。

四 385 (3/1) 水中に 河童しやがみ(?) 池を訪う (苦しい句です。昭和三年頃の創造でせう)

私も予想より滞在が長くなりました。安曇野の冬の風物をよく楽しみました。荘厳な雪のアルプス、白馬の現実の眺望、終生の感動です。土地を離れたことのない私です。ので、今回は松本の(溝?)池小学校校庭隅の笹村先生の創作の河童池をやっと探し、先生の創造の河童を見ました。私も恐らく今回で終りでせう。

一月二日は兄の他界に接したが、私は葬式にも七七忌にも行かず。きっと兄ももう一度語りたかったでせう。94才でした。先年訪ねた折、二人で埋葬する墓も定めておきました。兄妹で私が一人残った次第で、人生当然のことですが衝撃ですね。――三月中には帰宅しますが。

タイに三月探訪する木俣さんにもう一度帰国したら語ってみたいです。

段々句も作れず、畑も作れず、皆さんとも遠くなるでせう。
西原よりやや寒いが暖房の家で、はじめて一人の冬を無事過します。海拔五三〇メートルで西原と同じです。しかし日照時間が長いです。

386 (3/19) 彼岸が来るので、小雨の十五日に松本平(安曇野)から送って貰って帰宅しました。長い滞在でした。雨の帰途は車窓から風景も見えずでした。何処も未知ですから何処も心に残れます。

寒い独りぼっちの冬を暖く又退屈せず過した果報者でしたが、家に帰れば気が緩む精か、気力もなく、寝てしまった私です。

春が早く桜も早そうですが、留守が長く、何から行ったらいいか 手も出せず追って便りします。

387 (3/23) 春が早いと思ったら、彼岸から小雨から雪でした。東南の権現山にはまだ残雪があり、廿二日から天気は回復ですが、大風のあと廿三日は氷が凍る。何も出せず、休養つづけています。

時期を失いました。乾菜、干菜、ご笑味ください。馬鈴薯 男爵を求めすぎ、伯爵(白早生) 品切れの由、試作してみてください。

388 (4/1) あかつきや 梅花滴して 今日も雨

菜種梅雨とても申しますが、暖です。廿六日路の臺を探しに行くとき日向で八株カタクリが咲いていたのには驚きです、半月位早いです。雪が乏しく暖冬だった精か、花も葉も小さいです。鶯はまだ鳴きません。展示替えの「土と木と炎と」「たまのよこやま」折を見て熟読です。

廿四日 町内の文化人の畏友OM氏が他界67才長い交友でした。毎年カタクリの群生を見にきました。弔電で済ませました。葬儀は廿六日で、参列できぬ私ですから仕方ありません。(カタクリの開花) 小俣さんに関連在りそうで侘しくなりました。

去年の四月 カタクリの咲く頃は亡妻の看護でした。二年ともカタクリは侘しい花になりました。 シコクビエの製粉やつとできました。

389 (4/6) カタクリや 先立人の 精霊か

東京も甲府も桜開花の様子なれど不安定な天候で、西原は今年は一週間位早そうなので、矢張り四月廿日頃でせう。私は信州の冬を楽しんだ方がいいが、留守が長かったので、何から整理したらよいか弱りました。やつと雑穀を精白したり、ジャガ薯も

早掘りを植えたりで天候は悪し、一般も遅れた様子。それに昨年と同じ運動不足か体調は悪し。

特に昨年から知人、同輩、近親者も他界して了たので人生当然の出来ごとですが、生き残ることも流石に孤独にはなれていても、生きる張り合いが抜けず。

先般は失礼な乾燥野菜の干葉、初体験で信州へ持参試食しました。是ならばと思ひ、ご笑味を乞った次第でした。

松本から長野までは 仲々遠く、善光寺参りを進められ、車で十時頃善光寺へ一時頃(着)で、月曜日でしたから混雑せず楽でしたが境内を歩くは大変で、そばの晝飯、私の記念に求めたいものも無く、一輪挿しの花瓶代わりに五合入位の百?丁と観音經を土産と求めれば、娘が荷を持つが大変で、私は杖一本の体ですから。日本で一番先に来たのが善光寺の本尊ですが、縄文人のお天道さん尊敬の私ですから。でも淋しい時写経でもと思います。帰宅五時頃で結構疲れました。

雑穀 僅ですがやつとご笑味戴けます。雑草の中から縄文人のごとく集めたシコクビエと思ってください。甲州玉蜀黍はカユへ少し入って食すも面白いです。餅も団子もいますが、皆が工夫して食べるようです。なにしろ山村も農は崩れた時代です。貴重になりました。小麦はパン用ではなく麵用で、小麦粉、シコクビエ二三割交ぜ ウドンを作ればそば風ものが出来ます。

鉢の寒紅梅は散り、日蔭に置いた盆梅は咲き出した処です。日向に置いた鉢の彼岸桜五日三分咲で毎年桜のさきがけです。侘しい花になります。

390 (4/19) なすな咲く 畑へ捨置く 鋤へ雨

桜の咲く頃は農人は忙しい。矢張り四十五日桜の満開は早まりました。

十五日(木) 十時 親友が車で来て花見に連れて貰いました。八十九年振りで原・飯尾 西原の半分の上を一巡しました。道路はよくなり、家も世相も変わった事が判りました。中川さんも同乗でした。随分と種々に出遭った精か、神経が疲れきって了へました。然し何年振りかで天気はよし、桜は十六日頃が満開でせう。蕎麦を食べべ別れました。二時半帰宅。

安曇野で四〇日も遊んだのが祟り、春の準備が無いので閉口です。

誰も忙しい時代なので、忌日より早い方がよいと十一日(日)に近親者のみで亡妻の一周忌を営みました。翌日は(月)なので、此日遅く帰宅の人もあったでせう。私も疲れて了いました。五月は子供誰か来るでせう。年々体は衰えるのみです。

391 (5/11) 御疎遠になりました。向いの山が裾辺が青葉 中腹が若葉 上は萌芽が

一日と云えず変ります。高尾の山頂と拙宅は同じ高さですから。戦前若い日に一度頂

上迄登って六十年超でせう。新宿は廿六年行きません。

時に先般は早速苦心した土偶の論文頂戴し、お礼遅れお詫びします。猶小林先生編の『最新縄文学の世界』は私の教科書になり、大変縄文学に付き教えられます。浅学ですから自己判断で推定の縄文学ですから、折々再読します。新聞で時々新しい出土が眼につきます。矢張り弥生時代から農は始まっていた。それは私の推定が近かった。農と考古学は興味があります。雑穀が縁でずいぶんいろいろの先生たちと結ばれた私はその事だけでも生き甲斐があります。

安曇野の冬、山の遠望を楽しんだが、それが原因か、淋しい時は書籍で山の遠望を楽しみ、日本百名山、山梨百名山、甲斐百名山、と集めました。花の百名山もあるらしい。写真で名山を見るも慰めですね。

畑作はもう駄目で、畑を作らねば句も作りません。でもはじめて新しい俳句の歳時記を信州の書店を久し振りで訪れ、求めました。新聞広告は見ただけで実物を見ないと私に合うかどうかは判らないで、是も老人は不都合です。暖になっても体調は思わしくありません。

毎日日中は独りぼっちで、何だかふるさとを離れないが、他処へ住でる様で、いうなれば生き残った浦島のような。昨秋以来、安孫子さんや木俣教授のみ便りを戴くのみで、慌しい時代か、消息もありません。私の方からは差し上げたのですが。

四月十一日亡妻の一周忌を近親のみ招き営みました。当日も珍しい甥や身内が来て語り合いました。亡妻の姉が一人あり、妻より三つ位年上で塩山市に定住、久し振りで逢いました。子息に連れてきてもらい、結構老いていて、よく来てくれました。

昨年は木俣教授三月下旬、奥の丹波山に来た折に拙宅へ立ち寄る予定が、妻の重態で会えませんでした。今四月は多忙で七月休暇頃に研修の人達と御来駕の様子ですが、一ともあれもう一度会いたいものです。

四月末期一朝の晩霜で、僅しか作らぬ野菜も馬鈴薯もやられがっかりです。それは一般でも、私丈ではありません。木も草も焼けましたが、平然としている草木もあり、作物が一番弱いらしい。

五月の連休、末の子が一泊で来て、山菜や筍を掘って帰り、他には子供も来客もなし、畑には流石に出ていませんが、私は家居も侘しいので仕事でした。家は何やら用事らしく、毎日一人でした。何やら気力もなく、思い出しては書いた便りです。御機嫌よう。そのうち又申し上げます。(書き出して手間がかかり、十日位でせうか。老化して了たのでせう。)

十五日は万障繰合せして御来宅下されましたが、失望なされてお帰りとお詫び申します。心をこめた土偶を戴、飾る処もなし、私のマスコットですのに。非農家ですから、私の使う場所が段々減りました。今は社会がサラリーマンで、私の如き自由の生活はありません。悟ってはいますが、全国衣食住が同一時代ですね。炉辺で育った者には淋しい。

二十二(土)には昔の句友が、西原やまめ会の研究家が迎えに来て、原迄話に行き四時帰宅。あつたはずの資料が紛失して弱りました。五体が老てきました。

一週間照りましたが、24日は小雨で午後は寝ました。15日御来宅下されてより毎土曜は、人に接します。22日は、知つての西原やまめ句会を、研究家が旧句友を訪ね旧友が迎えに午後車で送り迎えて原まで行き、四時帰宅、29日は木俣さんの紹介で家の光から月刊誌『地上』の雑穀特集をだすため取材に来ます。カメラマンも同行らしい。六月五日に桐原で古守豊甫博士の講演に招待されました。私と語りたいてうが、是は連れて行く人がないから行けぬでせう。畑の忙しい時期になり、毎(土)でも元気がないから困ります。と云つて来宅されても茶も出せず、24日は雨らしいので、昨日十日は遅れたがシコクビエと穂モロコシ、種切つては済まぬと、紅花を作りました。

七日は木俣さんが学芸大で研修している上野原高校の先生と訪れ。五体も老化し、何やら根性も折て了つた私です。矢張り独り静かな毎日がよいで神経を使うと疲れて、頭が具合は悪いし。畑を作り、句を作る元気がないとそれにてです。小雨で午前中、やつと慈姑の箱に植えました。菊も植替しなければ。紫が濃く花しようぶが咲きました。五く六月は、私の何といつても一番の多忙です。

五月から現在迄に上野原町にも光化学スモッグが三回発令(西原除き)。霜にあつた馬鈴薯も元気になり、六月五日と推定したが三日に(花)咲きました。キュウリ、夕顔、南瓜は霜にやられ、後植したら照りで枯し散々です。

(木俣さん紹介の「地上」の来訪が五月二十九日午後二時)当日はカメラマン同伴の由で、床屋にかかるやら、知て通り散逸してしまつた雑穀の種を探すやら、又どうして写真に撮るや考えて、取材時間二時間半でしたが、準備に一日半もかかりました。五・六月は私の一番忙しい時期です。精神的には疲れるし、体調悪し、暑には負るし、精根、気力も尽き果て了つた次第です。取材などは神経使うのでこりこりです。

六月五日の土曜 桐原で古守豊甫医博の公園に先生から招待がありました。農協まつりや町長町議選告示七日で、私を連れて行く車なくでした。六日は、私は欠席ですが、外孫が立川で結婚式で、孫が外孫にしろ最初でして長命したよろこびの一つです。

七日は午前雨、午後止む、入梅だから降るかと思つたら又天気です。とうとう七日より寝込んで了った次第。心身の疲れと暑さにやられたらしい。

万緑や 握手交せる 町候補 やつと一句です

八日午後 西原候補が訪れたので握手、彼も遠縁なんです。町長と町議が同一なので、それから車道は賑やかです。お祭り騒ぎです。

以上、私のその後と一ヶ月ご無沙汰の理由の訳です。今日で五日寝込み、床の中で書く始末、お許しください。十一日金はなんとか診療所へ自力で行くつもりです。断片的です。何日かかの便りになりますやら。

395 (7/8) (便箋4枚のうち一枚目を欠く)・・・を持つ由ですが、私は来年やつと90ですが、最早 鋏が使えなくなりす。六月七日に寝込んでから、十一日(金)にどうにか自力で前の診療所に行き いろいろ手当をいたしたら多少具合が良く、翌日から雨が降らぬと盆栽の手入れかたがた庭を歩き、運動です。16日は五十年忌以上になります。亡母の忌日で、毎年この日は新ジャガを掘って供えます。野菜畑行つて掘って供えました。

遠き亡母 忌日へ供えし 新ジャガや

もう畑の事も考えず静養ですが、孤独にはなれて居ますが、流石に乍しく過去の事が浮びます。淋しいことで、覚悟はしているんですが。

七月三日、(五月二十九日に)取材のあった家の光の姉妹紙「地上雑穀特集号」掲載誌が来ました。折が有つたら、コピーでもして送りたいです。七月二日午後五時 光化学スモッグが発令されました。この日は珍しく時鳥が仕切りに鳴き、蒸し暑い日でした。雑穀(を作るの)は今日を中心に三日位で、5日遅いながらも苗床に蒔いたが、後はそのまま寝込んでしまつたんです。段々体調は持ち直してきましたが、早くも一ヶ月になりまして、五体不満足な体もメマイは遠のきました。九月半ば頃は或いは回復するか?幸いに休養中は雨が多く涼しく、寝ているには温度適します。七・八月の夏の休暇を得て、子供も孫も顔を見せるでせう。

・・・痛むところをなでたり、薬を塗ったり貼ったり、内服薬もあるです。七月の空はいつ快晴になるか 自然観察も怠り勝ちで 朴や栃の花も知ず。栗の花は気が付きました。紫陽花は咲く処です。

396 (7/28) (安孫子が問合せた・・・)カラムシは西原でも私が百姓をする頃までは多少採る人がありました。私の父は折には採り、縄用で下駄のはな緒や小包を作る小縄用でした。麻より皮は薄いが丈夫でした。織物用は明治時代迄でせう。父は夏の土用中が採集の時期と云い、刈つて束ねて干したものを暇なときに水漬して加工したでせう。生ではなく麻同様で、麻もその刈た後に、畑の後作は味がいいといって、干菜用の蕪菜を作りました。織物用は古い時代、楮、麻、カラムシ、或いは桑だったでせうし、煮てからさらしたでせう。

中川さん宅には焼ける前その頃の反物があり、タホと云いました。カラムシの根は掘つて、摺つて小麦に混ぜ、打撲した所へ貼る民間薬として用います。猪が掘つて喰います。人が喰つた話は聞きません。兎に角、糸にする迄には手間がかかるが、遠い昔には草木の皮で布を作つたですね。

・・・小倉遊亀画伯は104で絵筆を執り、尺八の島原帆山さんは99で元気に尺八の指導をしている。私は来年やつと90ですのに、鋏が使えません。老醜ということですが。五体が不満足は仕方なしです。淋しくも独り、生きる間は周囲の人に厄介にならぬよう頑張つています。・・・真夏の暑さをどうにか越して、九月彼岸迄に無事なら90迄生きられるでせう。暇があれば、あれこれ整理も行いたし、亡きあとは、大方は屑として捨てるでせう。

若い日からもがいた私も、宿命で清貧と浅学に苦しみました。もちろん名もいらず、句も残す必要もなし、安孫子さんは私の半生知り知りませんが、随筆も何編か地方紙に書きました。整理した中から、読んでいただくよう同封します。一冊笹村先生と私の事もでています。(判読ください)

297 (7/28) どっしりと 石に腰かけ 夏の空(夕方に)

梅雨明け23日より猛暑です。東は猛暑 西は洪水ですね 五体不満足の私は、鋏を捨て二ヶ月です。この暑さに耐えて、秋までに静養に努めます。日暮蝉が鳴きます。お盆当方は八月です。

398 (8/30) 炎天を 逃れ樹下で 蝉をきき

夏も終ります。猛暑の夏、八月は局地的の豪雨でしたが、西原は今年初めて出水で何処よりも雨量は僅で被害なしでした。

お盆は雨で何も楽しめず、家の者は新盆廻りに追われた様子、子供も亦慌しいか、十五日夕方一泊で墓参に一人来ただけで、相変らず孤独のお盆でした。

廿六日午後 木俣教授学生と五人達で来宅 一時間程でした。小菅泊りの由。米国には十日間在来とのこと。相変わらず多忙でせう。随分元氣な雄姿でした。やく一年

振りで会った次第。・・・
今夏は、日本大学生物資源から学生が調査と木俣さん丈です。もう来訪する方々も
無くなるでせう。

廿二日 末子(三男)が墓参に来て、一緒に私も墓に 本年初めてです。忙しい中を
平野田の亡甥の焼香と新築した家を見に行きました。

399 (9/7)

芋の露 晝でも光る 秋である

猛暑の夏 極地的な洪水 鉢を捨てた私は、矢張り健康で働ける事が一番楽しいとし
みじみ思うこの頃です。但しいつも野生児ですから気ままで自分の事由の毎日とし
た。山のけものに近い生活であろうか?とも感じます。

生命力は強でせう。駄目と覚悟したが、又三ヶ月経たら回復してきましたが、昨年と
は十年も経たように老いて了ました。―何かを学び何かが行えることが活きているこ
とでせう。

九月になると感激な句集の祝賀会を思い浮かべます。それにしても一年経る老化し
たものです。ぐちのみ書いたが、生き残ったことを誇りとし、頑張ります。西原地
区除き、九月五日迄、光化学スモッグが6回発令、空気丈はいい方です。

夏の発掘現場、お疲れですね。オオタカは山梨でも話題です。

五日 山形では日本一の芋煮会でした。種類は違いますが、当地は十月で無ければ芋
が出来ません。十五夜が当方では芋の年と言伝えられます。

400 (9/20)

コスモスの うす紅色や 秋である

涼しくなりました。然し快晴とはならず曇天です。九月は秋祭りで十八・十九が一
宮です。敬老会はいつも十月で、三日です。―お盆もお祭りも一人でテレビでも見る
丈です。孤独には慣れていますが、語ることも聞くことも生きていけば必要で、無言が
続くと頭が変です。―涼しいから元気が出て、来年のことは当にならないのに春は何
か作れるかと、荒れた畑を時おり開墾の支度をするが、豊作らしい秋も収穫するもの
なしです。是も物足りぬが、いつかは当然のことと予期していたが、現実となると淋
しい。知の通り生活は不自由ないが、五体不満足は辛いことです。彼岸には子供も忙
しいから当てにならず、それでも九月半ばすぎから十一月半ば迄は私には好季節で
す。何とか越冬が出来ればと体力づくりです。

日がさすと蝶や蜻蛉が来ます。―やっと虫眼鏡入手しました。今年こそ「雪虫」観
察します。視力が悪いから暑いうちは双眼鏡も使いません。
お祭りや物日(行事)は特に孤独感が深まります。

401 (10/6)

マゴノ手で 背を搔く夜長 虫鳴きて

山頂から秋が来ます。青色があせて病葉が散ります。暇ですがまだ読み書き事に気力
がでません。近代化とは慌しいこととせう。・・・お盆も秋祭りも又彼岸も忙しき
か訪れる者なく、そうした物日の折は家は留守が多く、ひとりぼっちの私です。

診療所へは週に一回か二週に一回通うが、知人もまれて世間話の相手もできず、生
き残れば残るほど、孤独で余所者のようです。珍しく照り年の一年で、豊作の秋で
すが、収穫する者もなし、怪しい秋です。・・・

夏の想い出は、木俣教授と学生が来宅した事で学生の一人は町の方で、便りしたら
早速返信がありました。矢張り町の人とあれば恋しいですね。他に日本大生物資源
科学部の学生が二人きました。世間には通用しない老人を訪ねる人も絶えるでせ
う。小菅には200才の人がいました。桐原・小菅の間の西原は両地区より短命です。
そんな事を考えます。それにしても労働力も弱い私が生き残るとは不思議です。

十月 鉢の彼岸花が咲き誇る。夏の照りで遅れたでせう? 山野の自生とはきつと十
日位遅れたでせう。十月は快晴乏しく、急に低温です。

402 (10/20)

冠雪の 鳥海へありと 友とも会へ

鳥海山へも白山へも初冠雪の由、寒さが急ぎました。

秋は会えぬと思っていました。いつも私は多弁ですから、注意しても嬉しさのあま
り駄目で、人前では食事も恥ずかしい次第。三歳児のようです。

世代がちがうから、親しく語る相手も無く、無言の日が続きます。午後は薄日がさ
し、あれから残りのさつま薯を掘りました。金子さんとは一年振りでした。ここま
でくると会った時が終り日、六月から五ヶ月目で、宿命と戦いながら最後修行で
す。十二月半ばから厳寒でこれから無事に越冬できれば200年で卒寿ですが。

間もなく霜が来るでせう。西原の秋色は霜が来てからです。菊も満開は十一月で
す。予報では暖冬だという。地球も段々高温らしい。

403 (10/28)

友と別れ さつまを掘れば 遠山日

年に一度、人中に出る祭りです。前夜祭は危ないので、十日、展示コーナーを見に行
き室内を杖なしで休みながら見て、今年はやや早く帰りました。盛上る頃には車が激
しいから安全の時間に帰宅しました。五体不満足の上巻碌味で、恥をさらしてはと
思います。それでも四五人 知友に会いました。晝食にヤマメ、センベイを食し、そ
れから寝込みました。天気は実に快晴で上々でした。帰っても語る相手は無し、今纏
文人の休養は寝るのみ。

紅葉の早い行楽地をテレビで見ますが、格別美しいのは上高地、奥日光、北海道でしたが、新潟の秋始末と題した「小さな旅」で、紅葉ばかりが秋色ではなく、黄に実った田圃もいいですね。鳥海山の秋は田あり海有り、私の夢の風景です。ふるさと祭りは前夜祭がいいです。お神酒呑、芸能楽しみ、町のおはやし、檜原？からの和鼓、お祭りすきな甲州睦会の神楽や川をはさんだ行灯の灯、土地の和鼓、太鼓の音、ふるさと西原の匂い、遠い昔の祭りが浮びます。それにしても全校四五人（だけの）小学生、山村の行末はどう打開できるでせうか。

404 (11/10) 遠山日 仰いで犇と 落葉風

立冬になりました。気温は平年並に戻りましたが、曇が多いので珍しく初霜までです。

今日は嬉しいお便り有難うございます。猶、私の無聊に温かい読物（書籍）を戴き、重ね重ね御礼申し上げます。御入来の折のお土産のまんじゅうはとも角、包紙に私の思慕する近藤・土方の事が書てありました。高幡に記念碑あるは青年時代から知ていましたが、銅像迄は知りませんでした。四十万人になっても今まだ両雄の如し傑物は出ませんね。甞った次第です。

八日雪虫を見ました。午後小雨で認めた丈です。虫眼鏡を入手したので、今年こそ良く調べたい。それから花木の花芽を調べます。是が私の行楽代りです。夏の日照りで菊も不成績の由。もう拙宅は日照時間は六時間です。冬至が近いか本格的寒に入り、体を鍛えて是非、新年を迎えたいものです。

405 (11/20) 小春日の 黄昏れ三日月 見つけけり

二日間快晴で十五日は終日雨で急に冷えました。十六日は晴れたが、木枯し一番が吹き荒れて今冬初めての寒でした。柿の葉も落ち尽したが、実は一つもありません。五月の晩霜（のせい）でしょう。是も侘しい風景で、凋落の色濃くなりました。予報では暖冬の由なれど、雪が多いかどうか心配で、森蔭ですから雪が降ると全く冬籠りです。知て通り足が不自由ですから向の山を眺める丈です。

車の通るは僅に見えるですが、例年より行楽への車は少ないですね。もう少し動けたら終日一人でも退屈しないですが、何も御送りできぬことは張り合がありませんね。それでも老人としては倅せの方と思えます。生活に心配はなく、何とか自分の身廻りが自分でするに。只今は小籠で落葉掃きが運動です。柚も蒟蒻も送れません。雑草で荒れ果てました。

新千年を迎え度、体調を鍛えています。兎も角。過疎化には困りました。

406 (12/4) 霜柱 踏ゆく足ざはり 山の冬

今朝一番寒く部屋が六度で、もう二〜三度下がると炬燵から離れられないです。霜柱が立ました。地面が凍る支度です。廿日が私の誕生日です。満八十九才で新千年を迎えれば九〇です。私も何とか頑張り新千年を迎えたいんです。

短命の村で十一月から葬式三つです。小菅村の六十年間の老友が八五才で先立つ。十一月廿一日でした。衝撃でした。一次に、兄甥姪が死去で、本年も喪中で年賀は欠ます。正月明けに申し上げます。静かな正月が三年続きます。

オオタカの保護は大変ですね。肉食動物は狼が減び、貂や狸狐も餌不足で移動です。雑食の弱い鼠やウサギは餌にされても絶えませんが、鷹類は大木に巣を造らしく、西原では松や樅の大木に小さな鷹がいました。

末筆恐縮です。良き越年をお祈り申し上げます。家の廻りの落葉掃きをしています。

407 (12/14) 黙然と 冬枯の山 見入りけり

体調は幾分良いですが、寒と痛みます。なにもすることも無いが、正月は来客もありませんが、家の中の整理や掃除でもと思えます。無事の御越年お祈り申します。

冬枯れや 襟かき合す日 葬の列 (弔句 十二日友人が死去 葬式後

六日経って知りました。七〇歳 実感ではありません)

日本海側は本格的雪の季になり、交通も混乱ですね。

西原産の山葵漬一番早く入手 御笑味を乞う。種薯本年遅れ昨日入荷 私は昨年の半分注文ですが、造れるか作れないかは、一、二月寒を越した体調次第です。昨年は半分捨てました。空白があるから何個か入れましたので試作してみ下さい。

体調 相変わらずで、朝は室内三度です。戸外へ日当りが遅れる家です。十時です。日照時間が短いから、支度をした雪虫は観察せず、それに本年は雪の降るさま程の群

は一度もなく、五、六匹です。花芽は観察します。廿日誕生日で翌日から九十才を数えます。どうにか新千年の初日が押せます。

平成十二(2000)年 降矢90歳

408 (1/7) 双手あげ 新千年の 目を仰ぐ

慌しい時代故 好天気でしたが庭に眺める処、実に静かな正月でした。私は喪中故にとさら侘しいは当然、子供は次男が四月以来はじめてで 他には来ません。私はいつも通り一人で午後庭にでるのみで 炬燵です。

期待と何か不安な拜年で 男の長老雀はいつまで続くことか？

409 (1/14) 冬萌て 木々の梢の 芽が光る

今冬の初雪が十二日午後以降りに降り出し、思いがけず二女が迎えに来たので三時出発で安曇野に向う。甲府は雨で松本盆地は小雨で六時到着。但し、自動車でしたが、車窓から何も見えずでした。何日か娘の世話になります。

越冬白鳥が十二月頃から来ている由です。特に疲れひどく、一日位は静養です。元気になったら白鳥を見に行き、白馬やアルプスの遠望も楽しみです。川は西北に流れ信濃川になりますので、西原は西北が水源ですから反対です。九十才を迎えた出発ですが、矢張り老化増して今度は一つの冒険ですね。然し小雨で西原より暖か、気象変化は妙ですね。三月を想わせる暖です。冬芽といいますが、その通りです。

今度長く滞在しないで帰宅の予定。世相慌しいようで、期待と不安な出発です。ご

410 (1/25) 冬萌の あずみ野の麦 つややかな (十四日の句作です)

九十才を迎えたものの当然ですが体調は老化するのみで、兄の喪中のみでなく、心の浮かぬ侘しい正月でした。

十二日、・・・(松本行) 翌日は一日雨で疲苦で寝込みました。

十四日 三月を想わせる暖な晴天にて 真冬の遠い盛あがっている白馬やアルプスの雄大な山々を仰ぎ その荘厳な遠望あきません。午後は川に越冬する白鳥・鴨の群を見に行きました。

411 (2/7) 日向追う 冬のみぢか山かげに

二月二日 廿日ぶりで信州から帰りました。二年続けて冬の信州を見ました。今年は珍しい暖冬の由ですが、豪雪地帯は例年通りで、私の遠望を楽しみたい処は五・六月でなければ行けません。幸いに除雪された白馬のジャンプ場へ廿四日(競技の前日) 好天氣に見に行きました。八方尾根スキー場も遙か望みました。

三年つづいた喪中がやっと明けましたので、諏訪大社に行き、諏訪湖も眺めました。何処も見納です。元氣と云っても齢には勝てません。五体は老化するのみです。

帰宅しても三月下旬迄はじっと冬眠する私です。四日は待望の立春で私の正月元旦この日が農の起点です。

二日に帰宅したら室内は二度で、暖房の生活とは格段です。それでも我家です。四日は〇一度で外は〇七度でせう。暖冬とはいえ、越冬は仲々です。疲れがたか又、軽い貧血です。

412 (2/7) 帰宅したら 何やら気抜けしてしまいました。私もういよいよ老化は増し、

当分私もご無沙汰します。

桜の花の咲 四月にでもなったら、私も氣力がでるかどうか？

413 (2/14) 冬麗ら 坂みち下る 杖つくる

日脚が伸ばしたが、庭へは九時頃で、夕方は三時四〇分の日の入りですが、午前中は炬燵です。暖冬とは申しても、一月僅か降った雪が日蔭には残り日向は風が吹くと土埃が立ちます。秋から照りが多く乾燥で、当方は雪も降らず。帰ってから何も手に就かず、毎日孤独です。何をなす氣力も出ません。異常気象はいつまで続くか、水不足になるか？山梨は乾燥で梅花の咲くも遅れる由です。爛漫の春も異常有ですね。花の無い庭に鉢の水仙がボツネンと芽をだしました。

二月一日は末子が八王子支店より北巨摩高根町支店長に昇格栄転しました。今夏は甲府の自宅から通勤でせう。十二日は町に住む長女が掃除にバレンタインのチョコを持って入来、半日仲良く語る。好日続です。

414 (2/28) 暖冬も残寒が仲々去り難く、雪も降らず乾燥しきった庭には花も無く、水仙が芽を出しただけです。南房の農友の便りには菜の花盛りで春耕が終り、野菜作りだとの事。当方は例年より春が遅れそうです。四月では菜の花は、二月に帰る折、街では桜や紅梅が咲いていました。あれから一ヶ月ですが、町の北隅の日蔭の我家はそのままです。然し日脚はもう一時間長くなりました。年は改まっても世相は慌しい様子、是から若者達は実に大変ですね。

地図を求めたの時に虫眼鏡で方々を見ます。秋に二回も探訪された木俣教授の奥群馬の豪雪地帯の雑穀の残っているという片品村・新治村や今秋研究会を開く六合村等を丹念にみています。西原に似た特色や伝統があるのかわれませぬ。

415 (3/5) 桃の節句 当方は梅も咲かぬ珍しい節句にて、二月は一度も雪も無く、是

も史上はじめてでせう。残寒が厳しいうえに乾燥で日向は土煙、日影は凍って、二月は毎朝厚く氷です。町の北隅、海拔500mですから町より一ヶ月も春は遅れそうです。雪が降らぬので暖でしょうから、現場は予定通り進行なされていくでせう。

新聞に珍しい出土の事もよくありますね。東京ドームの洋蘭展や盆栽の国宝展も見たい事ですが、想像や推定ですますのです。

自分は縄文人ですから、立春が元旦で天文学や氣象の崇拜者です。八十八夜の十日前後から雑穀作りで、彼岸頃から例年はジャガ植です。申し遅れたがジャガ種は男爵ではなく伯爵です。男爵より病害に強い早生種です。

帰宅して一ヶ月何もせず、午前炬燵午後やと戸外ですが、山の南面まで一度も行

かず庭が天地です。年が改まっても慌しい時代で、私の子供も忙しいから家に帰りません。退屈な独り節句 四日午後小雨 五日は晴ほこりしめしました。もう僅でせうが、春が待ち遠しい

416 (3/17) 毎日何もせず居りますが、老化したという事でせう。退屈していても仲間書くことも読むことも致さず、老人は皆そうかも知れません。・・・八日は一日丈暑いとという程の好天気で、後は又寒風と曇空でしたが、十二日朝起きて見ると雪が盛んに降り5センチ位積もっていました。十時頃には止み、空が晴れ出しました。午後は好天気です。雪は夕方まで待たず、遠山も何処も跡かたなく消え、物陰に僅残のみ、春の雪は心配はないがこれも特別早い消えようでした。雪が来たら農人の特性で気が落ち着きます。

孫七山便りを読みました。感動します。然し私とは比較にならないことです。私もそうすることが夢でした。西原から峠を越えて広い天地で生きてみたかった。土竜だか井の中の蛙か、生きるために宿命と戦って農をやっただけですから。佐々木さんにして

も学は有り、学理の基本を根本にわきまえてですから。E Wさんの紹介、いろいろ懇切にお知らせ戴き御礼申し上げます。考古学を通じ、良き友人を得られ、何よりです。それにしても戦争の為とはいえ、実に数奇な運命の方だと存じます。何しろ学者です。広く諸国を歩かれ、織物の方も権威者の様子。早速敷物展まで実現されて敬服します。敷物展には細君と同伴で行かれた由、何よりでした。私などとは是また比較にならぬ方です。いつも申し上げます。

宿命とはいえ、小学校卒業したら父が病気で農もできず、母を相手に農の主任でした。父はその後七年ほど経て、多少畑にでましたが、二十四才の時に三日患って死去しました。故に七十五年の農の主任で三代分(廿五年で一代での主任になつての平均です)。私も若い折に何処かで一ヶ月でもいい、西原外の広い土地での体験を試してみたいです。旧制中学へ又行きたかったですね。

外国の人達は日本に来て先覚者になれた人達は沢山居りますね。中川村は伊那谷です。飯田が近いので西原より暖かいでせうし、海拔が高いので眺望が良いでせう。先年土竜大井の水源の村は、雑穀が残っていて雑穀の研究会があると聞きました。長野には秘境が多いですね。開田村の大根漬を食べたことも、モチトウモロコシ作ったこともあります。

417 (3/28)

春憂い 地図披見しつ 旅へ思慕 (「奥三面遺跡資料」)

以前見学の折伺った四十五年前と思っていましたらもう十年で今回の検討会有意義と

存じます。門外漢の私には解されませんが、水没には惜しい遺跡ですね。雑穀の文化にも影響は大きいと私なりに推定しています。南から北へ往來した広大さにも驚きです。渡来人は沢山あつたでせう。学が無し遺跡も出土品の展示も見ませんが、宿命で良い参考ですが、その度、無学が淋しい。若いころから努力はしたんですが、宿命です。宿命から仕方が有りません。忙しい年度末で拙宅も忙しそうでもできなくなったので申し訳ない氣もします。御礼まで

元氣ですがもう少し温度が上らねばまだ着ぶくれで、朝の室内は四・五度でもう二十一度高くなれば楽です。春分の日やつと権現山を眺めたら残雪がありました。風のない日は晝から暖です。考えると老人としては倅せな方ですが、老人は皆孤独です。まだどうにか自分で自分の事がやれます。生残りには是も修行ですね。

418 (4/12)

カタクリや 春を告げり 日向ぼこ

四月になつたら春めき水も凍らず、八日の日は特に暖で鶯がはじめて鳴き、自慢の早生富士桜が一輪開花で西原では一位でせう。菜の花も咲いたか蝶が来しました。染井佳乃は月末に咲くかどうかです。

山梨は桃や桜とお祭りで賑やかな様子ですが、西原は春が遅れやつとジャガ植です。見え隠れして通る前の県道も観光の車は例年より僅です。静かな過疎地と云う事でせう。学芸大も忙しいらしい。小菅丹波山調べに本年来る予定でその節はお立ち寄る由 三月下旬 昨年七月に来ました上野原出身の学生が春休みに来宅

暖で盆栽の植替をはじめました。老人は何をしても根気なし。三月以来孤独の生活で静かに余生を送るのみ。生き残ったことも仲々大変です、

419 (4/17)

四月になりましたら急激に季節が進みました。例年より遅れそうな桜花も

平年並みに開花します。色紙の件ですが、三枚書いたが思ったより大仕事です。私も手拭にでも染めてと考えたのですが、数少ない友人や雅友には下手でも記念に書いたものと思つた訳で、手拭を配るのは私の性格に似合いません。ところが字の上手下手はともかく、判る句であり、私の句らしいものを選定すると問題なんです。心を痛めます。こうした場合でも浅学が及ぼすですね。矢張り残る残らぬは別として、差し上げるものは大変です。色紙は長野から帰ると用意してあり、出来上がったらご笑覧に入れる予定でしたが、少し始めたが進めません。

四月はネギを一束購入して荒地に植、ジャガ早掘り用に植たり、盆栽を植替えたり。桜が開花して三日目三分咲きでした。山の蜜蜂が早速来しました。

蜜蜂が 梅へ挨拶に 今日来し

こんな私で、九〇才にして私の表面は至極幸福そうである。

五月連休明け頃、お出掛けの予定のようですが、金子さんからもそんな便りでした。西原も年々静寂です。サラリーマン時代は山村は特にそうですね。・・・畑を見る処もなし、それに雑穀の方も作れない私ですから、訪ねてくれる方も稀です。体がもう少し具合がいいと楽ですが、生きている間は介護を受けず苦痛でも自力で余生を過ごしたいですね。

(以下は反故紙にメモ書き)

実は色紙と短冊を求めて来ましたが、九〇才の記念に友人に贈ろうと練習中で、もう老化が進み最近は何がふるえ特に筆を持つとふるえて駄目かも知れませんが、五枚ほど老人のありのままを書いて贈りました。

浅学の上 習字の基本も習った事がないから無理です。特に句の選定も大変です。

① 双手あげ 新千年の日を仰ぐ (元旦の句)

② 河鹿啼く川辺の桜 友を訪う (昨年四月の句)

③ 立春や 山葵 萌出す 鶴の川 (山葵屋君へ)

④ 天日浅し 土手を背にして 爺一人 (同人へ)

⑤ 山渡る 風よ春をも 道連に

⑥ 花の春 閨浮檀金は 夢の夢

⑦ 春遠し 水仙寄添う 日射しかな

⑧ 梅咲きぬ 雛の節句や 山の村

⑨ 菜の蕾 寄添う日射し 春浅し

⑩ 息かけて 梅の蕾や 息白し

⑪ 厚着して 風吹く空や 曇はとぶ

⑫ 道ふさぐ 大風後の 落た枝

十句は最新の即興でこの中から選んで書きます。

句歴五十年でも素養も人格も低く、老人は駄目です。

表の記も面倒をかけたが句集に加えるは恥ずかしき事多きで、静かに余生を過ごしたいのみです。取り急ぎ書き加えました。

420 (5/2) 日脚伸ぶ 辛夷の寺や 夕の鐘

私は思いも依らぬ 本年も桜の花見を十八日好日に友人の御厚志で、車で花見をしました。山葵屋さんです。十一時頃中川さんに行き三人車で原丈にしました。間もなく晝で、花の里(蕎麦店)で中食をとり、三人で歩き帰りに中川さんで談別れました。一年振ります。家が建たり道ができ、空家ができて、一年でも変わるものです。

廿三日も好日で、亡妻の三回忌を子供達だけで営みました。早いもんです。三年です。

忙しいから(子供達)日帰りです。連休も私は独りです。

萌芽から若葉に変わりますね。

天候が不順故かこの処足腰痛も何も出来ません。五月一日運動にやっと歩くと松姫峠から十六年前に十才幼苗を採ってきた五葉つじ(学名八汐)が十六年でやっと開花を見つけ、足の痛みも忘れるほど嬉しかった。やっと念願の花も見たんで嬉しい一日です。 いずれ又

421 (5/2) 28日付けの御葉書五月二日 拝見しました。いろいろご多忙の御様子、連休明けの例年の十五日頃と期待していました。私は四日でも五日でも在宅暇ですが、

何の用意もできぬお詫びします。連休で郵便物遅れたそうで、お返事が届くかどうか、二日に投函します。久々に会談させよう。

422 (5/11) 明暗をこめて咲きにし 躑躅(やしお)かな

五月晴の好日御来訪下され 全く有難いことでした。貴重な連休を本当に嬉しいことでした。例の通りで飲待も出来ずお詫びします。どこか車で散策を申されたが、東部落通益へ小型車で一周の道が完成しては是を望みましたが、久しぶりの面談も恋しく止めたんです。

愛蔵の松二鉢 枯死され落胆している四月でした。

五月一日足の運動にとふと五葉つじの咲くのを見つけ嬉しくなりました。十七年前に松姫峠より実生10才の苗を採って植えたものが、私が九〇才を祝して咲いて呉れた気がして元気ができました。五葉とは葉五つのつじ学名やしおで つじ科で一番大きくなるつじです。 安孫子さんに撮って戴きこれ又何よりでした。

423 (5/18) 記念の写真美事にて 早速御送付下され忝く御礼申し上げます。子供に送る予定 親しい友人にも。偶然といふか、卒寿を躑躅が祝して呉れた気がして、嬉しく

て毎日眺めに行きました。安孫子さんが今年に限り連休にご来宅も偶然の取合わせか満開を撮って戴けたのも幸運で、十五日頃は散りました。十七年振りの偶然かしら? 十五日に金子さんと滝川さんと私の卒寿を祝賀して記念品を鄭重に下さいました。

色紙は汗顔でしたが五日に書いていたんですが、下手は承知ですが、人格が現れますからね。浅学農人耄碌気味なんです。でも病弱で生き残ったことも不思議です。

若葉から青葉への鶴峠越し奥多摩経由の帰途は好感だったでせう。私も武甲トンネルから松原山岳有料道路鶴峠への初夏を想うことがあります。ここ毎日俄雨が二三回あって、時には沢山降る日もあり閉口です。

母の日や 白い躑躅が 悦びて咲き

母の日にしたら変な味ですが、妙です。この句を金子・滝川さんご二人への返札の句を副えてお札状を差し上げたんです。
西原も地方色は亡くなり、五月節句の伝統も段々失せ 近代化はいいが私には怪しい。体調もすぐれず、毎日独り単調な生活ですが、それでも考ええると老人としてはいい方かも知れません。

424 (5/27)

偶然の 重なり躑躅 友を呼ぶ

全く私には好都合なやしおでした。廿六日写真焼増しありがたし。立派な写真で子供に送りました。私も案外元氣に見えますね。天候が悪いのに五日は好日和でした。私は一番適温の季節ですが体調はよくありません。・・・同級生では生き残ったことですが、誰より勝利者とも思います。浅学でも亡き笹村先生と三十年近く交際したことが聴講生でもあったでせう。その後 木俣教授と是も聴講生であったでせう。次は安孫子さん、この三人に巡り合ったことが私の一生の人格を高めて戴いたのですね。宿命と挑戦の力でもあったと信じます。
向いの山に藤の咲くが見えます。大きい藤株でせう。・・・急に真夏日が来ました。廿五日は町に光化学スモッグ発令で西原は除くです。
暑いと暑さにも負けます。なるべく世話かけぬよう頑張ります。

425 (6/12)

ぬつと出た 枝に咲たる 山法師

(小正月に団子をさし) (山桑)

と呼ぶ

暑さが早く五月下旬から真夏日が来、雨は乏しく照りにやられました。馬鈴薯の花盛りに入るところです。作物に依ると照りにやられますね。
私は五月下旬より昨年の如く体調が悪く何もできず、畑は荒たままです。生活も心も豊かさがほしいですね。まだ色紙も又沢山送って戴いたまま 本年の記念写真もそのままです。暇はあるんですが、心の豊かさが無い時はだめです。随筆や論説や民話も書いた日もありました。
中川さん西隣の源久さん 五月27日 74才で亡くなる。原では昨年十一月から男性五人目の他界です。後輩がよく先立つて了う。気候も異常で松蟬も鳴かず、蛙も特に雨蛙は見ません。まだ時鳥も来ません。それで人影も少ない西原です。

426 (6/26)

青葉冷え たずねて呉れた ほととぎす

雨の日は低温で梅雨晴には特に高温ですね。廿日の暑さは三二度位でした。廿二日も暑く、光化学スモッグが五回発令の由ですが、西原は除外です。・・・

雨の日が続くと戸外に出られぬから退屈します。然し雨の日は時鳥が忙しく啼きます。松蟬、雨蛙も近年は鳴かず。六月半珍しく農友古家実君を訪ねて半日語りました。十九日は野菜畑に行くと思えず、親友山葵屋さんが留守に四月の花見の写真出来上がり、沢山置き、会えず残念でした。
父の日に末子が十時に来て晝飯食し帰る。二人でジャガの發掘り、ダイコンを持たせる。例年より遅れています。当日、子供達が卒寿を祝ってテレビを呉れました。壊れて四ヶ月使えませんでした。

427 (7/18)

沛然と 雷雨に散れる 沙羅の花

紫陽花はまだ小さな蕾ですが、週日小雨が降ったりやんだりです。
霧の巻く 山村どうにか 投票へ
前略 暑い事です梅雨が明けた由で、是から夏本番どんなに厳しい暑さか。・・・次に何も送るものではありませんが、インゲンを今日採りに行きました。採ったままでしたので 選別してご笑味ください。畝を捨てて遊びに作った野菜です。昨年ほどではありませんが、五月下旬より体調はどうもよくなって、歩行が特に不自由で、家の周りの運動です。
・・・忙しい時代に暇な身も怪しいです。それで句作も読書もやれません。齢という事でせう。九月彼岸頃までは暑で大変でせう。

428 (7/27)

山百合や 人気なき郷 日にひそむ

梅雨明けよりの猛暑には驚きました。室内で八十九時までになつても30〜31度を指します。日中戸外は36〜37度でせうか。昔のようではなく 早く雨戸を閉め、風通し悪い室内ですから閉口で、布団に転がっているが、夜明けは10〜12度位に下がります。眠るのはきつと一時頃でせう。
朝は遅いから、午後から四時頃まででむしろ日盛りは風のある緑陰の方が涼しいです。・・・五月に安孫子さんが御来宅下されてから、それでも月に一人位は訪ねてくれる。六日の選挙には男の長老として自力投票に行き、自己満足しました。一年振りです。皆忙しい時代に安閑としている身です。然し生きている故に二〇〇〇年札を手にしました。昨日より今日も雨で十度以上低温。

429 (8/8)

暑い日が続きます。夏のお祭りの土地は賑やかですね。東北が有名、富士五湖、八王子で手近もあります

八月は想い出の多い月です。敗戦になり、大分空港から三日がかりで廿四日に復員したら、留守中家は類焼していて、生きる為必死でした。それから四〇年前、八月十

四日退院（半年入院）いつも清貧に生きなければならぬ宿命でした。それでも生命力はあるのでせうか、生き残ってきました。

◎木俣さんが学生と八月十七日訪て下さる由。木俣さんと会えることが楽しみです。又、賀曾利さんは八月一日東北からサハリンに出発、一ヶ月走る由。

暦では立秋ですが残暑という事でせう。例年はからが暑い。大根、白菜作りが大変です。立秋後一週間後が平均の季●です。秋そばそうです。

上野原は八月のお盆ですが、私は物日も独りです。盛んに蟬が鳴き、蜻蛉が訪れます。五月、近くに森の芸術館ができ、三月より一ヶ年予定で農村公園を築設中。村の様子が判らぬ老人です。ソバ作り名産の目的●そばどころ三軒あり、まだ増す由。然し山村はいずれも過疎化同一です。

430 (8/21)

秋立り 荒れた畑の 竹煮草

大 目
十七日 期待していた木俣さんは御不例にて会えませんでした。学校の改革や記念行事、米国講演等で御心労も加わったでせう。当日は学生三人で中に一人井上典昭君は三回で上野原出身です。小菅泊りの由、少し遅かったので短時間でした。午後五時頃より雷雨で、雨降る頃着いたでせう。

十三日から雨で涼しいお盆でした。誰も来客なし、子供は町ですが、七月に一寸来ました。家の者は新盆が多いし行事もあり、相変らず独りぼっちで戸外に出られず、侘しいお盆でした。暑さも彼岸迄ですから、一ヶ月ですね。涼しくなったら元気に戻りたいです。朝は雨でしたが暑くなりました。

431 (9/5)

ぬ さりげなく 秋の虫聞く 夜となりぬ

（暇はあっても心が和まぬ）

と句作れず）

七月タイ国に行った学芸大学生が帰国して、日本の夏の方が暑いという便りを呉れました。たしかに八月お盆が過ぎたら残暑が厳しく盛返しました。体の管理が仕事で涼しい処を探し一日が終るが、雨戸を閉めると部屋蒸し、私も寝不足でいろいろ思うのです。孤独の侘しさですね。しかし伊豆諸島を思えば、まだまだ我慢できます。一度北海道から日本海側を通って見たかった夢がありました。日本海は表であつたからです。奈良・京都も恋しいが、今は夢を捨て静かに余生をと気弱になりました。昨夏のように寝込みはしません、一年経つと齢が寄るですね。

八月十七日一年振りで会えるを楽しみにしていた木俣さんが風邪で延期は残念でした。

た。秋は都合するとは云いますが、多忙なのでどうなりますか？
九月になれば日照時間も短くなるので涼しくなりますね。

432 (9/14)

新涼や 風に。揺れてる コスモスが

一と畑へ 南瓜胡瓜も ゆうがほも

九月二日は記録的な暑さ、翌日小雨で気温下がる。三日は終日雨で二日より一〇度以上低く涼しさを越え寒さを感じ、慌てて重ね着をしました。富士は初冠雪の由。

私は若い時から病院に行き、いつも生活に追われて旅には行けず、妻には進めて団体旅行や時に温泉へ行かせました。私は日帰りには稀に行くのみで、以前は家禽を飼って家を留守でせず。手作り農は暇なしで、晩年、家畜も飼わず、養蚕も止めてよりやつと●と何とか保養しました。望みはもつと若い日に出掛けたかったです。自分反省してすすめています。

五月下旬の暑さから体調が崩れ、遊と運動を兼た畑や盆栽類の手入れもできず、然し生き残っているは不思議です。話せば愚痴のみ、お詫びします。僅の間に 気候の変化にも驚きます。照り出すと暑いし、体の管理が大変です。雨が降れば適当の温度ですが、戸外に出られぬと独りの侘しさです。便りは書くが、五十六日投函できないことが多くなりました。

伊豆諸島を思えば俸せだと思つたら、多摩ニュータウンや秋川へ島民が避難は都庁の人事では？（註・教育庁の担当だった。私も秋川の避難先に3日間手伝い）。それから全国的の豪雨ですね。東海が最も●、九州・四国は長引きますね。当 上野原方面被害無く、西原は出水せず、十一から十二日は晴れて、晴れ渡った名月を十時 戸外で中点に輝く月を●●かです。●に一度位の記憶です。（●汗？の滴で読めない）

433 (9/14)

素枯れたやさしい 御笑味ください

434 (9/18)

百日紅 花尽き彼岸の 回向かな

先日の豪雨は笹子峠より桂川沿いは被害なく、小雨で甲府中心の富士川は被害があつた様子、何といつても伊豆諸島や東海でせう。西原 十二日午後四時頃から晴天で素晴らしい十五夜、私の記憶でははじめて、夜空高く曇ひとつなく九時と十時に仰ぎにできました。句作るにも感動強く、「お名前月や名月や」でした。

翌日曇り、十五夜は半曇りで敬老の日に町に住む長女久し振りで来て、私の部屋の整頓と掃除をして呉れました。十六日は雨で雷雨になり、夜は西原の秋祭りの代表で、雨の中を神輿が廻りました。子供や若者が乏しい過疎の山村祭も淋しく、地方色もなくなりす。夜は幸い雨が止み、台風逸れたか、十七日も午後日ができました。

私はいつも独りで、関係なしです。新生せねばならぬ日本も実に激動な時代です。私は想う丈です。男の西原の長老です。生きている間は自分でと努めています。

435 (10/5) 天変地異とでも申しますか、本土全体 局部的豪雨で名古屋付近が最高でせうが、山梨も笹子峠を境に何年振りの洪水、都留郡内は小雨で被害ありませんが。九月は当方 秋祭りですが十日過ぎのお祭りはみんな雨に祟られました。お祭りも過疎地は子供も若者もすくないですから、きつと年々さびれてゆくでしょう。

畑へは時々野菜採りのみでしたが、八月は日照りでしたから日蔭(森かげ)畑が幸いして好成绩でした。実は二回目の野菜は追肥せずに不出来でしたが、考えると来年は野菜作りが不可能と思つて、子供や知人に発送したんです。一個発送も二日ばかり畑から採り入れが一日以上で 荷造りして三時まで農協に出さぬと翌日です。農協は祭日、土日は休業です。今日四日やつと発送完了で、発送すると疲れて後は何もできず、思いながらご無沙汰になりました。

木俣さんは秋中には都合して来訪されるとは云うが？ 賀曾利さんは八月一杯北方で九月は韓国をいずれもバイクです。十月は久し振りで帰宅の様子と便りがありました。

秋しぐれ 初栗膳へ 旬の味

廿日 町在住の長女が栗を煮て訪れました。九月敬老の日は長女祝賀に來り、信州の孫娘(園芸館に勤)が水仙と水も土も不要で卓上に置けば花が咲くというコルチカムと称する球根が届き、県と町の祝賀金が戴け、盆と正月が一度にきた如き佳日でした。私は火氣厳禁の生活で、煙草も室内では吸わず、戸外のみで畑で仕事にかかる前や終った折に吸うのです。畑で一段落した折 空箱に腰をおろし 自然を眺めながら吸うのが実に好い幸福感です。

こおろぎよ 明夜も歌へ 夜長かな

436 (10/17) 宵祭り 山裾にかすかな 灯が見えて

秋風が肌にしみます。男は辛いですね。

十四・十五日の西原ふるさと祭りは天候に恵まれましたが、本年はこの不自由な体で自分の齢を忘れては行けません。楽しみの祭りですが、車は多いし間違ひでも起こしてはと思ひ、家に独りで居ました。付添でもなければ不用意ですから。川面に映ずる祭りの灯は好ですが、庭では川の望めぬ家で、祭りの音を聞くのみ。仕事着で何かやるにも人目につくし、退屈な二日間でした。五〇人あつた旧友はほとんど先立って生き残つた事は、幸か不幸かと考えます。

山が色付づきははじめました。下旬から十一月が紅葉の盛りで、菊も咲きます。処で、

以前木犀の咲く頃は稲刈りでした。

行動範囲が狭いから、西原の風物も判明できなくなりました。本年は里芋も作らず、蒟蒻畑も荒してしまいました。昨夏より記念桜のある処まで行きません。

死ぬ人が多いので、死んだつもりと考えれば諦めがつきます。死とは自然に帰ること、後はどうなるか？こう思うといいですね。暇で野生児ですから、折々投函が遅れます。

437 (10/24) 山の秋 都庁の友よ 紅葉せり

秋が深くなりました。十月もしぐれる日が多いですね。新生する時代でせうか、忙しい時代ですね。以前十月半ばには里芋採つた時代がなつかしい。しぐれる日は日中部屋は十二度です。

桜や山うるしは紅葉しましたが、霜が来ないと紅葉の盛りにはなりません。・・・西原文化人の作品を展示コーナーで見たいので毎年行きました。・・・

菊も咲き出しましたが、文化の日頃から満開になります。異常時代ですから遅れそうです。秋は私には丁度好い季節です。体調も快調ですが、矢張り、年々体力は低下です。皆忙しいから、拙宅も空家のように、毎日一人です。テレビを見ると行楽やスポーツが休日には賑やかですね。

ツが休日は賑やかですね。

438 (11/4) ゆく秋の 歩めば咳して 草紅葉

雪虫か 短か日舞して 冬隣る

晩秋ですね。愚図つく天気ですが、霜はないが紅葉で 文化の日頃菊も盛りですが、少し遅れました。この連休 休息できましたか。三日も雨模様です。何か又ご多忙ですか。十一月といえば気温も低くて室内は十一度です。皆この連休で行楽・スポーツと秋を楽しむでせう。拙宅でも皆、何処かへ出かけました。もう私は世代交代ですから、今日も弁当を貰つて相変わらず対話もなく、一人家居です。

天気だと日向が恋しく、日を楽しみます。十二月下旬迄は、寒にも負けず、好期で苦しみながらも夏より体調は良いのです。

昨日 友人が訪ねて来て三十分ほど語り、みかんを戴きました。私の求めたのは酸味です。家居していると食欲も進みません。

森影の日蔭の畑に菜類をいろいろ作り、間引き菜を子供、知人に與えます。家では僅使用のみ。何年振りかで京菜を作りました。この菜の漬物が好きですが、今の人達はやわらかな漬物が好きです。静岡では正月の雑煮に欠かせぬ由。私は煮て喰つた事が

ないから、煮て喰う試食です。他の菜で十二月は干菜一寸作ります。野沢菜はもう取り上げたい程で、町の長女に持ち来るように葉書を出しました。

439 (11/11) 初霜や こうべ下げたり 里芋も (十日朝 初霜あり)

残念なのは六日(月)に木俣教授が突然の御入来、晝頃だったでせう。近くの畑に菜類の間引き

に行き、農協に一寸寄った折だったでせう。留守と思ひ会えずでした。小菅宿に泊る由、土産に

記されていました。学生同伴でせう。毎日一人で退屈な私ですのに。

七日の立冬は暖でしたが、翌日から曇 急に低温でその後は小雨がパラついたり薄日

で、十日朝は初霜でした。兎角短日で朝日遅く家で晝は三時に日が陰ります。西原は紅葉盛りを過ぎそうです。私には初霜や初雪の折は体に障ります。なれると多少いいですが、今は九度ですが、十二月廿日頃は五度になる。それからは虫の如く冬眠ですね。

440 (11/13) 追憶の 京菜漬たり 小春日を

又しぐれそうでしたが、晴れたので日を楽しみながら畑に行き、やっと菜類の間引きを終えました。きつとご迷惑であることを承知で、間引き菜(京菜・冬菜・のらぼう、小蕪)四種類を送ります。京菜の漬物は若い日の好きな漬物で、今の人は結球白菜

好みで京菜漬けません。容器を探して野菜菜の如く湯を通してと思います。私の事ですから、味良くできるかどうか？三度食べれば気が済みます。京菜は茹でて

永谷園のあさげ(粉みそ)に熱湯を注ぎお汁にし、満足しました。畑は、日向は沢山あるのに、もうこんな有様でさつま薯など遅れて作ったら小さく日かげですのでこれこそ捨てるでせう。農人の最後はどうにもなりません。……

441 (11/22) 短日や たばこ輪に吹き 夕映えを(戴いた煙草の句です)

草紅葉 土手に憩いて たばこ吸う

北海道は雪ですね。下は一度のみで、桑はまだ青いです。……

十一月十五日、里芋を沢山作った隣の畑で野菜売り場には仔芋のみ出し親芋は捨ててあるの

折よく出合ったので来年種用に所望し、心よく貰いました。慾をだして沢山貰い受け、

日影の畑

に深く掘り埋めました。来四月は腐っているかどうかはその時のことで、多分、役

立つ予定で

す。上手に保管できれば植えきれぬで、結果により四月中旬に元気でしたら種薯としてお送りします

す。本年は種用の芋を知らぬ間に喰って下さい 植えませんでした。……(痛む不自由な体なの

な体なの

で来春の畑作りは無理といいながら、捨ておれば無駄にしたくない農人の習性がよく

でいて

る)……謝礼に京菜を差上げたら大喜びでした。……気に入れば彼も作るでせう。短日ですから晴れると気忙しい一日で、何か仕事らしいことやれば疲れてしまいました。……私は子供を満腹させる為、親は空腹であつても我慢し、子を世に出すのに

自らは乞食になつてもという教育に育ちました。今日の時代は違つてきたようです。処で飛んだ菜類を差し上げ痛み入りましたが、ご利用下され何よりです。特産品の乏しい土地で、捨てるよりはと思つた次第です。

町在住の長女夫妻 野沢菜採りに来て、是は役立ちました。早いがといつて私の誕生祝を持ってきた。倅夫婦は留守で、冬籠りの支度として雪、矢張り子供はいいですね。

短日を ねつ造きき 空を仰ぎ

442 (12/18) 寒菊や 三頭風におののきて

霜柱 踏めば音する 日影道

木守りの柿へ ごとくな 小鳥かな

慌しい時代の師走も半ばになりました。例年より寒が早いですね。……

私は西原を小学校から約七十五年見てきました。只一人の子を戦死された親、子に先立たれて孫と暮らす人、又は孫の無い人、独り暮らしの人、現在寝たきりの人も六七人はあるらしい。わたしは五人の子供は健在で、内孫も健在で、只妻が先立つた丈で

す。半身不随の不自由な体でも戸外に出て、庭で自然を眺め、時には僅でも野菜や花を作り、長男と同居で生活に不安は有りません。只、毎日が独りぼっちであるのみ。

時に十一月馬鈴薯種入荷、伯爵で白早生ともいう。男爵より病気に強い。いづれ折が有つたら送ります(一箱求めたら多いから)。宅配は農協で近いから便利です。

浅学ですから、生涯苦しみます。小学校で教えられた日本史を信じて、建国記念節に、

ゝ曇にそびえる高千穂の……と唱つて、子供頃にも感激し、大和民族を誇りに思つていました。そして応召にも国のためと戦死を覚悟で遺言書き、爪と髪を遺品として

出しました。海軍でしたから戦死すれば海底で、歌の如く水つくかばねを覚悟したが、日本史は余りにねつ造が多く、応召の折、盛大に村境に送つて貰つた事は、是が私の

葬式と心で思つたがどうも大本營発表も捏造の報道が多かつたことを知りました。日本史は勝つた事の歴史で、負け事は無い歴史ですね。……私は古事記も日本書紀も

藤原氏等の捏造したものの気がします。

ですから、私は太陽信仰の縄文人が好きで、大和民族よりも縄文人の子孫であることを夢にして、天道様崇拜で、天道様に恥じないことを根本にして自分の宿命に挑戦して来ました。一応神仏は敬うが頼ったり願ったことは一度もありません、生涯自分の闘いですね。……

443 (12/20) 冬冬だ 裸木を見あけて 空がある

明日は冬至ですが雨らしく、向いの山への日没はだめでせう。

朝室内も極めて寒くて、まるでヤマネの如く炬燵で丸くなっています。寒いと痛むし、終日一人ですから、食欲もありません。……舞茸を待ったが不作、出回しません。……私も一を加えると九十一ですが、正月はともあれ、是から三月迄は難渋です。でも雪の降らぬ間は戸外に日盛りは出られません。

444 (12/26) 冬日背に 宅配便へと 作る小包

冬至は晴天で、落日を見ました。縄文人には節分の翌日の方が正月に好く、今の正月は意に添えず、農人には旧暦の方が適します。即興の句です。

……金曜は診療所に医師が来る日で、腰が痛むので注射をしたり、痛み止め薬（安眠の）も寝る前に。但しこれは自発的、一晩置きに一錠を半分です。……雪が怖いのです。降ると前の坂道は私には交通止です。

生きている間は介護されず、自力でと体の管理は怠りません。